

調布ネットワーク

特集

電気通信大学におけるダイバーシティ推進の取り組み

特集

UEC WOMAN女子会10周年を迎えて

「袖振り合うも、UEC WOMAN女子会10周年祭り」報告

Unique &
Exciting

研究編

緒方 秀教 大学院情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻
情報理工学域I類(情報系)教授秋田 学 大学院情報理工学研究科 機械知能システム学専攻
情報理工学域II類(融合系)准教授森重 功一 大学院情報理工学研究科 機械知能システム学専攻
情報理工学域III類(理工系)教授Unique &
Exciting

キャリア編

河端 保志 株式会社TWOSTONE&Sons 代表取締役CEO
(2008年知能機械工学科入学)本下 昌彦 MSS-New York, Inc. プロジェクトマネージャー
フリーランス リサーチャー/ ネゴシエーター
(1978年応用電子工学科(T)入学)

(写真上段左から)「ハイブリッド講義の様子」「インタラクティブディスプレイの利用」
(下段左から)「夜の西9号館外構」「CED(情報・ネットワーク工学専攻教育用計算機室)の様子」

表紙説明

西9号館の全体改修を2年計画で行い、2024年3月に改修が完了しました。AI/IoT及びAR/VR技術等を活かしたDXの加速化や最先端研究を実装し、新たな価値を創出するイノベーション・コモンズへ転換しました。また、50%以上の一次エネルギー消費量削減を可能とする改修により、「ZEB Ready」の認証を取得しました。

電気通信大学同窓会
一般社団法人 目黒会



(目黒会公式サイト)

Contents

特集 電気通信大学におけるダイバーシティ推進の取り組み**特集** UEC WOMAN女子会10周年を迎えて
「袖振り合うも、UEC WOMAN女子会10周年祭り」報告

Unique & Exciting

- 14  緒方秀教研究室
数値解析の面白さ
研究編 緒方 秀教
- 16  秋田学研究室
利用可能なリソースを最大限に活用するレーダ計測技術の研究
研究編 秋田 学
- 18  森重功一研究室
付加価値の高い生産システムを目指して
研究編 森重 功一
- 20  「日本の不合理な常識を打ち壊したい」学生起業ベンチャーの歩み
キャリア編 河端 保志
- 22  通信放送分野から様々な国際ビジネスへの挑戦
キャリア編 本下 昌彦

- 7 会長挨拶
目黒会2025年度活動方針
一般社団法人 目黒会 会長 森 淳
- 9 羅針盤
我が国の大学は大きな変革期を迎えています
～イノベーション型国家への転換エンジンとしての大学へ～
電気通信大学長 田野 俊一
- 11 2025年度 支部総会のご案内
- 13 第82回定時総会開催報告
- 24 目黒会の在学生支援活動の紹介
- 25 同窓会賞受賞者から在学生に贈る言葉
- 26 2025年 電気通信大学同窓会賞
- 27 令和6年度 目黒会賞受賞者一覧
- 28 御退任記念祝賀会
- 29 退任のご挨拶
内田和男／來住直人／大淵泰司／永井豊／志賀幹郎
- 32 目黒会グループ会のご案内
- 33 グループ会報告 角田・赤池研究室同窓会
- 34 グループ会報告 グリークラブOB会
- 35 グループ会報告 73年卒業機械工学科OB会
- 36 会員活動紹介 お役立ち情報
- 38 メッセージ (旧おたより掲示版)
- 39 トピックス
飯島澄男氏 (1963年電波通信学科卒業) が
2025年King Faisal Prizeを受賞
- 40 トピックス
『紅葉・イルミネーション大賞』報告
- 43 会員サービスのご案内
- 44 メールアドレス登録のご案内
- 44 電気通信大学 鳥人間サークルU.E.C.wings
- 45 スマートテクノロジーフォーラム (STF) 2025
講演会開催のお知らせ
- 45 第75回調布祭開催のお知らせ
- 46 寄付・計報
- 47 第12回 電気通信大学ホームカミングデー開催のご案内
- 47 目黒会グループ会のご案内
- 48 編集後記／会費納入のご案内

電気通信大学における ダイバーシティ推進の取り組み

電気通信大学 男女共同参画・ダイバーシティ戦略推進室 室長

渡邊恵理子

1 はじめに

電気通信大学では、性別、国籍、年齢、障がいの有無に加え、価値観や経験、働き方など目に見えない多様性も尊重し、誰もが輝けるインクルーシブなキャンパスの実現を目指しています。特に本学のような科学技術系大学において、多様な背景を持つ人々の交流は、教育・研究の質を高め、イノベーションを生む強い力になると考えています。多様性を単に「受け入れる」のではなく、「力として活かす」ことを目指しています。

こうした姿勢を具体的な取り組みへとつなげるため、2015年に「男女共同参画推進室」を設置しました。2021年には「男女共同参画・ダイバーシティ戦略推進室」へと拡充し、より幅広い課題に対応できる体制を整えました。現在、担当理事・大家万明のもと、室長の私、渡邊恵理子、副室長の片岡寛子、さらに4専攻から水戸和幸、宇都雅輝、梶川翔平、池田暁彦らが委員として参画し、全学的な取り組みを進めています。

本稿では、推進室を代表し室長である私が、2024年度に本学が注力したダイバーシティ推進に関する主な活動とその狙い、今後の展望をご紹介します。

2 意識醸成と未来に向けて…ダイバーシティ

シンポジウムの開催

ダイバーシティ推進の機運を高め、学内外の関係者と共に未来を考える場として、2025年2月6日に「2024年度ダイバーシティシンポジウム・FD研修『男女共同参画とダイバーシティの未来』」を開催いたしました。このシンポジウムは、男女共同参画とダイバーシティにおける日本の現状と課題を学び、意識向上を図ることを目的としたものです。

シンポジウムでは、まず本学特任教授でもある中部大学総長補佐の宮浦千里先生より、「ダイバーシティ推進の重要性」と題し、工学分野における女性研究者支援の現状や、国際的な比較データも交えながら、大学全体のダイバーシティ戦略、さらには国レベルでの課題について、包括的な視点から講演いただきました。続いて、東京農工大学副学長の天竺桂弘子先生をお招きし、「SAKURA制度による『女性研究者促進サイクル形成プログラム』」と題して、同大学における女性研究者の育成や上位職登用に関する先進的な取り組み「SAKURA制度」などの実践例や、その具体的な成果と直面している課題について、貴重な知見をいただき、共有することができました。さらに、本学の男女共同参画・ダイバーシティ戦略推進室の片岡寛子特任准教授からは、本学が現在進めている具体的な取り組みについて、現状報告がありま

した。

パネルディスカッションでは、「理工系大学におけるダイバーシティと課題」をテーマに、講演者に加えて本学の田野俊一学長、美濃島薫副学長もパネリストとして登壇されました。大家万明理事と私（渡邊）のコーディネートのもと、特に喫緊の課題である、理工系分野において女性研究者をいかに増やしていくか、そのための採用・育成・定着に関する具体的な施策や、ロールモデルの提示、意識改革の必要性などについて活発な議論が交わされました。他大学の先進事例や、本学の現状を踏まえた課題認識、そして未来に向けた熱意が共有され、参加者一同、ダイバーシティ推進への意識を新たにしました。



図1 ダイバーシティシンポジウム

貴重な機会となりました。このシンポジウムでの議論は、今後の本学の取り組みをさらに加速させるための重要な指針となるものです。

3 次世代へ繋ぐ「匠ガールプロジェクト」

理工系分野への女性の進出を促すことは、ダイバーシティ推進における重要な柱の一つです。本学では、女子中高生を対象とした「匠ガールプロジェクト」を通じて、早い段階から理工系の学問や研究の魅力に触れる機会を提供しています。このプロジェクトは、将来の「匠ガール」、すなわち理工系分野で活躍する女性人材の育成を目指すものです。

2024年度は、夏休みと冬休みに合わせて計3回の「電通大でラボ体験」イベントを実施しました。7月13日のイベントでは過去最大となる122名、8月22日は68名、12月27日は91名の女子中高生が参加し、大変な熱気に包まれました。参加者は、情報学専攻、情報・ネットワーク工学専攻、機械知能システム学専攻、基盤理工学専攻から、本学の幅広い分野を代表する研究室が提供した合計27の多様なテーマの中から、自身の興味に合わせて体験を選択しました。バーチャルリアリティのための触覚・視覚インターフェース開発、視覚的暗号の作成、医療支援ロボット技術、レーザー光を用いた光ピンセット操作、音響物理学実験、強磁場下での生物観察、空中映像ディスプレイの製作、情報

8月22日ラボ体験の様子



「空中に映像を浮かばせる装置を作ろう」



「航空機周りの空気の流れ－スーパーコンピュータの威力と可視化の美」

7月13日ラボ体験の様子



「バーチャルリアリティのための視覚インタフェース」



「光でつかむ、ピンセット」

12月27日ラボ体験の様子



「脳が学習する仕組みを体験して学ぼう」



「モーションセンサーで作るインタラクティブ・アート」

図2 匠ガール：ラボ体験

セキュリティ技術である秘密計算体験、スマートフォン顕微鏡での微生物観察、スーパーコンピュータを用いた航空機周りの流れの可視化、未知の発光酵素の精製、脳の学習・記憶メカニズムの体験、モーションセンサーを用いたインタラクティブ・アート制作、人型ロボットハンドの製作、二足歩行ロボットのプログラミング、

ナノテクノロジーによる人工宝石作製、機能性有機材料の合成実験など、実に多岐にわたる最先端の研究に触れました。

これらの体験では、担当教員だけでなく、研究室に所属する大学生・大学院生がマンツーマンに近い形でサポートにあたりました。参加者は、実験の面白さや奥深さを体感すると同時に、先輩匠ガールである学生たちから、研究内容だけでなく、大学でのリアルな学びや生活、進路選択の経験談などを聞くことができ、自身の将来像を具体的にイメージする助けとなったようです。

参加者からは、「ゲームや映画のようなことが本当に実現する未来が見えた。自分もVRに関わる研究をしたい」「文理選択に悩んでいたが、理系に進もうと思った」「苦手だった光の分野に興味を持った」「大学の研究室の雰囲気に分かり、直接話を聞けて良かった。研究内容も興味を引くものがたくさんあった」「セキユリティ分野への関心が深まった。根本には日常生活と通じるものがあると体感できた」「上級生の人たちと体験できたので、少し先の自分の状態が見えてきた気がする」「ロボット関係の道に進みたいなど強く感じた!」「本格的な実験器具に触れて楽しかった。大学の雰囲気がとてもよかった」といった、目を輝かせながら語るような感想が多く寄せられ、進路選択への意識や学習意欲の向上に繋がる貴重な機会となった。

ていることがうかがえます。

また、これらのイベント開催時には、付き添いの保護者向けに学内の「UECコミュニケーションミュージアム」の見学ツアーも実施しました。本学の歴史や無線通信技術の発展に触れていただき、大学への理解を深めていただく良い機会となりました。3回の見学ツアーで合計130名以上にご参加いただき、好評を博しました。

ラボ体験以外にも、NTT先端技術総合研究所様主催イベントへの共催や、本学女子学生が母校を訪問して後輩へメッセージを届けるプロ



図3「UECコミュニケーションミュージアム」の見学ツアーの様子

ジェクトなども展開しており、今後も女子中高生の理工系分野への興味・関心を喚起する活動を継続・拡充してまいります。匠ガールプロジェクトを象徴する新しいキャラクターも2024年4月から活動を開始し、より親しみやすい情報発信に努めています。

4 学内環境の整備と多様な構成員へのサポート
ダイバーシティを推進するためには、学内の環境整備や、多様な背景を持つ学生・教職員への具体的なサポート体制の構築が欠かせません。2024年度には、以下のような取り組みを進め、よりインクルーシブなキャンパスづくりを目指しました。

まず、研究と育児の両立支援の一環として、「子の出張帯同費用の支給に関する取扱い」を新たに制定し、2024年4月より運用を開始しました。これは、研究活動等で出張が必要の際に、小さな子どもを持つ教職員が、仕事と育児のバランスを取りながら継続的に活躍できる環境を整えることを目的としています。

また、新入生のサポートとして、4月には新入生歓迎実行委員会と共催で「女子新入生交流会」を開催しました。これは、特に女子学生が少ない環境において、入学初期に同性の友人を作り、スムーズに大学生活に馴染めるよう、ネットワーキングの機会を提供することを目的としています。

学生生活の基本的な環境整備としては、前年度の試行結果と学生からの要望を踏まえ、2024年4月より学内10か所のトイレ（多目的トイレ1か所、女子トイレ9か所）に生理用品を常時設置することとしました。これは、誰もが安心して学業に集中できる、より快適なキャンパス環境を提供する上での具体的な一歩です。

さらに、進学希望者への情報提供と不安解消



図4 ランチョンミーティング

のため、7月と11月のオープンキャンパスにおいて「女子進学希望者向け相談会」を開催しました。理工系分野への進学を考える女子生徒やその保護者が抱える疑問や不安に対し、本学の教員と現役の女子学生が直接相談に応じ、個別の疑問解消やロールモデルとの出会いの場を提供しました。

学内のコミュニケーション促進と相互理解を深める場として、「ランチョンミーティング」(Chat Cafe for Diversity)を年間を通じて定期的に開催しました。育児支援、博士課程学生や留学生のネットワークづくり、介護制度に関する情報交換など、月ごとに多様なテーマを設定しました。様々な立場の人々が気軽に集い、昼食をとりながら情報交換や交流ができるインフォーマルな場を提供することで、相互理解とサポートの輪を広げることを目指しました。

5 持続可能なダイバーシティ推進のために… UECダイバーシティ基金

これまでご紹介したような多岐にわたる取り組みを、今後も継続的かつ発展的に進めていくためには、安定した財政基盤と支援体制が不可欠です。こうした背景から、本学では2024年度に「UECダイバーシティ基金」を創設いたしました。

この基金は、皆様からのご支援を原資とし、以下のような取り組みに活用されます。

- ①意識醸成を目的とした人と人をつなぐネットワーク形成支援
- ②誰もが安心して過ごせる学内環境の整備
- ③女子学生比率向上を目指した匠ガールプロジェクトの拡充および女子学生による母校訪問事業の推進
- ④その他、本学のダイバーシティ推進に必要な多様な事業

これらはすべて、「多様な人材が安心して学び、力を発揮できる大学」という本学のビジョンを支える重要な基盤です。すべてのメンバーが価値を認められ、自分らしく過ごすことができる環境こそが、教育・研究の質を高め、未来の社会に貢献する人材を育てる力になると私たちは信じています。

こうした思いにご共感いただける皆様には、ぜひ「UECダイバーシティ基金」へのご支援をご検討いただけましたら幸いです。これまでにご寄付を賜りました皆様には、心より御礼申し上げます。基金の詳細については、以下のURLにてご案内しております。



<https://www.uec.ac.jp/kikin/archives/fund/divercity>

特 集

UEC WOMAN 女子会 10 周年を迎えて 「袖振り合うも、UEC WOMAN 女子会 10 周年祭り」 報 告

UEC WOMAN 女子会 代表

岩本 茂子

(1971 年 電子計算機学科入学)

「UEC WOMAN 女子会」は電通大 OG、現役女子学生、女性教職員の方々と交流を持っていきたいとの思いで、2014 年のホームカミングデーで「仕事も、両立も、たくさん話そう!」をテーマに最初の集まりを持ちました。当時、電通大で女子学生向けのおしゃれな広報誌『UEC WOMAN』が発刊されており、その中に、「電通大を卒業、修了して社会で活躍する女性を『UEC WOMAN』と呼んでいきます。」とあります。椿美智子副学長(当時)と相談し、会の名前をここからいただきました。第 1 回の会合では、女子学生、OG、女性教職員の計 31 名が集い、学生、OG、椿先生によるプチパネルを行い、ハルモニアでのランチ会では皆さんが各 1 枚作成したフォトメッセージ上映会で盛り上がりました。

その後は主に、ホームカミングデーや調布祭の折に集まりを持ち、講演会、ランチ会、プチパネル討論会、一言トークなどを行ってきました。また、ホームカミングデーと同時開催のオープンキャンパスで、高校生に向けた電通大の総合コミュニケーション科学の紹介をしたこともあります。

メンバは 10 代から 70 代にわたり、学科や学域、専攻も多岐にわたります。OG は企業で活躍されている方、教育・研究に従事されている方、出産・子育て真っ只中の方、会社を経営されている方、会計士の方等々いて、学生時代には想像もつかなかったようなお仕事をされている方々もいます。また、療養生活や、介護の日々を送っていらっしゃる方々もいます。居住地も



関西や静岡、長野、東北、その他地域と広域にわたっています。

2016 年からは、2018 年の電通大創立 100 周年に向けて「100 周年に 100 名集おう!」を合言葉に、プロジェクトチームを作り、毎月のように 80 周年記念会館リサージュに集まって企画を練ったことは楽しい思い出です。100 周年の前年にはプレ 100 周年の会を開催し、幟旗やしおり、缶バッジなどの記念品も作りました。2018 年 11 月 25 日に電気通信大学 100 周年記念事業の一環として「UEC WOMAN 100×100—OG も現役女子学生も女性教職員も—」を開催しました。このと

きに電気通信大学60年史から、昭和20年6月卒業の第三部特科女子部1期生の方々のことを知り、ご招待のお便りを差し上げました。結果、6名の方と連絡が取れ、ご出席はいただけませんでした。2つご紹介します。「この度はお誘いのお便りをいただきありがとうございます。戦時中、短期間学ばせていただきました。お声をかけていただき嬉しく思います。ありがとうございます。私も今年で91歳となり足が弱って参りました。この度は残念でございますが欠席させていただきます。」「体調を崩して床についております。本当に残念でございます。最も華やかな青春の一頁でございました。男女同権の先端を行ったものでございました。飛んでも参加したいのに残念です。」直接お会いすることは叶いませんでしたがUEC WOMANの先駆者の方たちと繋がれたのは大変心強い思いがしました。100周年以降もホームカミングデーと調布祭には集いあって、お互いの状況確認を行い、年末や年度末には納会をして次年度の活動について検討しています。

コロナ禍においては、リアルに集まることはできませんでしたが、オンライン懇親会にて、メンバーの元気な様子を確かめました。コロナ禍が落ち着いてきたここ1〜2年は、また対面で集まりを持っています。

また、大学の男女共同参画・ダイバーシティ戦略推進室と連携を取り合って活動できるようになりました。UEC WOMAN女子会発足当時から参加してくださっている、現室長の渡邊

恵理子副学長はじめ、歴代の男女共同参画・ダイバーシティ戦略推進室長、室員の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

UEC WOMAN女子会発足当時は、まずは2018年の大学創立100周年までは何とか活動を続けようと思っていました。幸いその後も少なくともホームカミングデーと調布祭ではピンクの「UEC WOMAN女子会」の幟旗のもと、どこかに集まっておしゃべり会をしている状況です。

今年100周年を迎え、2025年4月19日（土）に「袖振り合うも、UEC WOMAN女子会100周年祭り」と銘打って記念イベントを開催しました。天候にも恵まれ、100周年記念ホールにOG、教職員の皆様が集いました。第1部では、電通大の監事で、はこだて未来大学の教授である美馬のゆりさん（1980年計算機科学科入学）の「AIと生きる、AIを活かす」の講演を伺い、その後ミニトークで、様々なキャリアの5名のOGの話に、笑ったり驚いたり感心したりして、勇気もらいました。続く第2部では、グループに分かれフリートークを行いました。私たちの本領発揮のおしゃべり会です。ダイバーシティと言っても、女性だけで集まるのはどうなのか？案外時代に逆行しているのでは？という議論もあるかと思いますが、電通大に通った、通っている、仕事をしている女性というくくりだけで、こんなに安心してなんでもおしゃべりできる場があるのはとてもありがたいなあと思います。ここからもっといろいろなサブセットが出来てくるのも有かと思ひます。



多様な世代、背景、得意分野の皆さんが揃っていますので、さらに交流を深めていきたいです。OGの皆さん、現役女子学生、女性教職員の皆様、UEC WOMAN女子会にご連絡いただくと幸いです。私たちは、電通大を卒業、修了して社会で活躍する「UEC WOMAN」を応援します。

目黒会 2025 年度活動方針

一般社団法人目黒会会長 森 淳



昨年度はコロナの影響も落着き、7月の「ホームカミングデー」の大学との共同開催、11月の「調布祭」への参加、国内全10支部の支部総会対面開催などのイベントが従来通り実施できました。海外支部総会もタイ、ベトナム、韓国支部において対面開催が実現し、米国はリモート開催、中国の北京・上海は調布祭にて日本支部会が行われました。また、「スマートテクノロジーフォーラム」、同窓会賞受賞記念の講演会、ホームカミングデー講演会なども充実した内容で開催できました。新サービスの結婚式お祝いメッセージカードや長寿祝いメッセージカードの郵送、図書館利用証申請代

行なども定着してきました。さらにホームページ上の「同窓会ラウンジ」における参加型企画（カラオケ、ウォーキング大会）など活動の幅を拡げることができました。在学生への就職支援サービスは毎日の就職相談実施に加えて3月の企業研究展示会には230社に及ぶ企業様の参加があり、学生、企業様から高い評価をいただきました。2025年度の活動も2024年度の活動実績を基調として、別表（2025年度活動方針の具体的展開）のとおりサービスを拡大・実施してまいります。また、目黒会における組織的統治（ガバナンス）強化の観点から目黒会の規程類見

直しを行ってまいりましたが、2025年度も引き続き継続し、ガバナンスの強化を図ってまいります。自律的ガバナンスの実現に向けた検討も開始します。

今年度は会長として2期4年目となりますが、今後の新体制移行を意識して運営していく所存です。今まで以上に皆様方の協力、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2025年度 新体制表（委員会）

委員会	委員長
規則委員会	古川 浩規
財務委員会	水戸 和幸
就職委員会	保澤 伸行
会員サービス委員会	帯金 幹夫
国内支部委員会	中村 憲一
海外支部委員会	古川 浩規
グループ委員会	保澤 伸行
広報委員会	高橋 真之
学術講演委員会	上田 敏樹
社会貢献委員会	水戸 和幸

2025年度活動方針の具体的展開

1 大学と同窓会の連携強化（定期連絡会の継続）によるイベント・行事の充実

- (1) ホームカミングデーを7月20日（日）に開催（オープンキャンパスと同日）
下記の企画で内容を充実させ、参加意欲の増大を図る
 - ・昼食の無料お弁当サービスを再開し、午前中からの参加人数の増加を図る
 - ・グループ会の活動紹介交流会を昼食時に開催し、グループ会活動の活性化を図る
 - ・ウエルカムパーティーで目黒会地方支部自慢の「地酒コンテスト」を開催し、懇親会イベントの盛り上げを図る
 - ・学域・学部卒業0、10、20、30、40、50、60周年に該当する卒業生のウエルカムパーティー参加者には席上で記念品を贈呈し、周年同期会の基盤を作る
- (2) 大学と企画を調整した目黒会記念グッズを、会員へ普及する

2 卒業同窓生へのサービス拡充

- (1) 会員サービスメニューの拡充およびPR機会を増やし利用者数の増加を図る
 - ・クラス会、同期会開催のサポート強化
 - ・シニア向け新サービスの企画
 - ・若手会員向けサービスのPR強化

3 在学生へのサービス拡充

- (1) 3月開催の企業研究展示会参加企業数を増加する
- (2) 就職活動早期化の支援対策を強化する
 - ・インターンシップ向け業界研究会の開催回数を増加（5月、10月に2回ずつ開催）
 - ・インターンシップ向け業界研究会の参加企業数の増加を図る
- (3) 学生正会員に対する国際学会参加費の支援を継続する
- (4) 学生サークル活動支援のPRを強化し、利用者数の増加を図る

4 同窓会ラウンジサイトの企画強化

- (1) 写真ギャラリーのテーマ別企画を継続する
 - ・ご当地桜、夏祭り、花火大会、秋の紅葉、冬のイルミネーション
- (2) お役立ち情報の投稿掲載数の増加を図る
- (3) 参加型企画を拡充する

5 スマートテクノロジーフォーラム開催推進

テーマ：AIが変える社会～挑むべき課題と描く未来～

日 時：2025年9月26日（金）14:00～17:40

場 所：創立80周年記念会館3階

講演者の選定などを引き続き検討し決定次第、PRを拡充し出席者の増加を図る

新事務局長紹介



ミヤモト ミノリ
宮本 美則 氏

●プロフィール

1980年 計算機科学科(D)入学

1984年 大学院計算機科学専攻(MD)入学

現在、目黒会事務局長

卒業後は、日本電信電話株式会社ソフトウェア生産技術研究所にて、ソフトウェア生産システムの研究開発に従事。その後、メインフレーム上のソフトをUNIX上に移行させるためのプラットフォームの開発に従事。この時は大学で学んだことが大役役に立ちました。NTTコムウェアの創業とともに転籍。それ以来、対電通大の採用担当を拝命して参りました。そのご縁か、2024年には目黒会業務執行理事を拝命し、グループ委員会と社会貢献委員会の委員長を担当しました。今年3月31日付けで目黒会理事を辞任し、4月1日付けで目黒会事務局に入局し事務局長を拝命しました。

これから更に目黒会を通じて連絡の取れる卒業生の方を増やし、卒業生コミュニティを活性化していきたいと考えます。皆様からのご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

羅針盤

我が国の大学は大きな 変革期を迎えています

～イノベーション型国家への
転換エンジンとしての大学へ～



電気通信大学長

田野 俊一

大学が潰れます。第二の要因は「失われた30年」と呼ばれた日本経済の長期停滞、無風の状態がついに終わりを迎え、物価や人件費の継続的な高騰というインフレ・成長経済状況の出現です。

これらに対応するために昨年、三つの重要な部会が次々に立ち上がりました。文部科学省が立ち上げた①中央教育審議会特別部会では、我が国の国公私立全体の方針、国公私立の役割分担や適正規模などを議論しています。国立大学に関しては学部定員規模の適正化、つまり、国立大学は学部を減らし修士・博士への重点化などが答申されます。全国の国立大学の集団である国立大学協会は、②わが国の将来を担う国立大学の新たな将来像WGを立ち上げ、国立大学としての未来像を描いています。また、文部科学省が立ち上げた③国立大学法人等の機能強化に向けた検討会では、国立大学の予算構造を検討しています。

◆視座が低い。我が国の「三つの目の大きな大学改革」としてとらえるべきではないか◆

しかし、残念なことに、これらの部会は、急に顕在化した「少子化問題」、「インフレ・成長経済状況」への対応が主となっており、視座が低く、我が国の本質的な問題を解決するための大学改革という観点が不十分です。

私個人の私見になりますが、我が国の大学制度は二つの大きな改革を経ています。

一番目の「大学改革1」は、明治維新（1868年頃）の大学制度導入です。西洋化と近代化を目標に、

①西洋モデルの導入…西洋の学問や科学技術を学ぶ場

②中央集権的な教育体制…政府の意図に沿った教育官僚や技術者の育成

③技術教育の強化…工学や医学などの専門知識の特徴を持つ大学群を作りました。

この大学改革は成功し、日本は近代国家へと転換

し、「列強の一角」とまで位置付けられるようになりました。

しかしながら第2次世界大戦を起こし、国土は荒廃し、次の大学改革が行われました。

二番目の「大学改革2」は、第二次世界大戦後（1945年以降）の大学制度改革です。民主化された教育制度を目標に、

①教育の民主化…より多くの国民のための高等教育、大学の数の増加・アクセスの拡大

②教養教育の重視…幅広い教養を学ぶことを重視

③大学の自治…大学における学問の自由と自治、学問の独立性

の特徴を持つ大学群に再構成しました。この大学改革も成功し、先進国に追いつくためのキヤッチアップ型国家への転換を果たしました。ついには「Japan as No.1」とまで言われるように、ほぼ世界トップまで登り詰めました。

しかしながら、その後、失われた30年と言われる進歩が止まった状況に陥り、今や日本は二流国です。これを打破するためのエンジンが大学の役割であり、それを三番目の「大学改革3」として掲げるべきではないかと考えています。面白いことに80年周期で変革が求められているように見えます。

◆なぜ二流国になってしまったのか？イノベーション型国家への転換失敗◆

我が国は二流国に転落してしまいました。まずは、国立大学法人化、プロジェクトベース予算配分、10兆円ファンド、選択と集中、評価し過ぎなどの従来の政策を評価し反省しなくてはなりません。従来の政策を十分に評価しななくてはなりません。しかし、従来の政策を改善するだけでは、さらに三流国に転落するまでの時間を遅らせるだけになります。反転攻勢とするには、従来とは非連続な政策が必須です。なぜ、我が国が二流国に転落したのでしょうか？私は我が国が「キヤッチアップ型」国家から「イノ

◆大学を取り巻く環境が激変しています◆

昨年度から大学を取り巻く環境が激変しています。その要因は二つあります。第一は急激な少子化です。大学進学者が今後15年程度で約3割減少するという試算が発表されました。単純な計算ですが約3割の

今年度は学長任期の最後の年です。これまで2020年から目黒会誌の「羅針盤」を担当し、本学のビジョンや、課題、新しい取り組みなど本学中心の視点で説明してきました。来年のこの同窓会誌では、簡単な「学長退任のご挨拶」を書くだけです。で、今回が最後の「羅針盤」という位置付けです。

最後の「羅針盤」では、本学中心の立場ではなく、我が国の大学が大きな岐路に差し掛かっていることを、大局的な観点で書こうと思ひ立ちました。大局的な観点で言いながら、最後には本学が重要な責務を負うべきだという我田引水的な結末になりそうです。

ベーシオン型」国家への転換に失敗したからだと考えています。「キャッチアップ型」国家の場合は、手本を改善、1を1にする人材で十分です。しかし、「イノベーション型」国家には、世にないものを生み出す、0を1にする高度な人材、つまり、博士人材が重要になります。具体的には、

- ① 理系だけでなく、人文社会系も含めた多様な博士人材が、
- ② 理系の大企業だけでなく、大中小企業、スタートアップ、政府、地方自治体、マスコミなど様々な組織で、
- ③ 大都市だけでなく、中小都市、地方など全国各地で活躍する国家

に転換する必要があります。

実は、政治は気付き、莫大な博士支援策を数年前に開始しました（10兆円ファンドの一部を活用。博士学生に年2000〜3000万円的生活費支援）。しかし博士増加は鈍いのが実感です。その要因は、入口だけ広げてもだめで、活躍の場が狭いこと、そもそも博士人材に対する、学生、社会のマインドが旧態依然のままであることにあります。うまく行っているのは、理系の大企業・ベンチャーと理系（情報系が中心）の大学・学生の組合せのみです。

◆処方箋、博士活躍の場をボトムアップで飛躍的に拡大するシステム：欧州のIndustrial PhD◆

欧州ではイノベーション型国家を実現しています。その原動力となっているのが、Industrial PhDと呼ばれる「博士活躍の場をボトムアップで飛躍的に拡大するシステム」です。仕組みは図1に示すように極めてシンプルです。

まず、M2の学生が取り組みたい「博士研究テーマ（3年間）」を胸に秘め、その研究実証環境として、企業・自治体等の組織を探します。次に、それを指導してくれる大学・教員も探します。この自由な（ボトムアップの）三者の組合せが成立すると、国の機関へ三者で申請します。採択されると、三者

に「美味しいアメ」が降ってきます。企業・自治体等の組織には、人件費と研究費が支給され、人件費は倍返しで学生の給与になります。年収500〜600万円ぐらいになります。大学の教員にも研究費が配分されます。学生は3年間、組織と大学、半々の時間で自身の博士研究テーマ（3年間）に取り組めます。

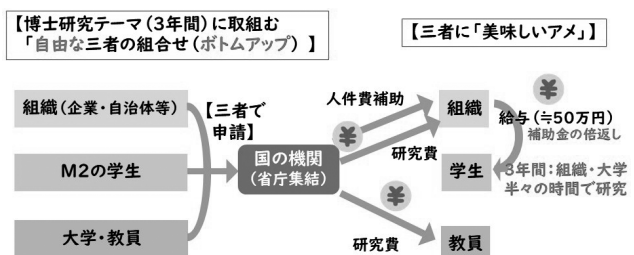
このシステムはデンマークから始まり欧州で50年の実績があります。その結果、博士人材が、大企業だけでなく中小企業でも、理系だけでなく人文社会系も、首都圏だけでなく地方都市でも活躍するイノベーション型国家を実現しています。博士学生を受け入れると技術力が上昇し、知財が増える、多くの場合（4割弱）学生は企業に残る、女性比率4割など様々な統計情報が公開されています。

企業、学生、大学（教員）の三者のマインドを変えている点が、現在の日本にとって、特に重要であると思います。この「美味しいアメ」が、博士人材に懐疑的なマインドを変える契機になります。すなわち、「美味しいアメ」があるので、博士人材に後ろ向きだった企業・自治体等の組織が試行的に導入してみることで、博士の能力、理系以外の博士の有用性を実感し、アカデミア・大企業以外でも面白い課題があることを教員が発見させ、学生には大企業・首都圏ばかりではない多様な活躍の場を気づかせるというポジティブループが加速度的に回ります。日本版Industrial PhDシステムにより、日本の組織、学生、教員のマインドを変え、ひいては社会全体のマインドが変わり、イノベーション型国家へ転換し、日本のRebootにつながるのではと期待しています。

◆今後の展開と本学の役割◆

日本版のIndustrial PhDシステムを欧州のように国として進めるべきだと省庁に働きかけています。この実現には新たな予算措置は不要で、既存の文科省、経産省、総務省などの予算を束ねることで実現

図1 博士活躍の場をボトムアップで飛躍的に拡大するシステム：Industrial PhD



できます。これができるのは国の組織だけです。しかしながら、悲しいことに国は実績がないと動きません。

そこで、本学が中心となって、日本版Industrial PhDの事業を立ち上げ、試行することを計画しています。実績を積み上げ、省庁、政府、政治家（国會議員、知事）を動かし、最終的には、国の機関設立へ繋げる構想です。

なぜ、日本全体の問題解決を本学がやるのかと疑問を持たれると思います。大規模大学がやるべきことです。本学には荷が重いですが、「電通大には産業界で活躍する博士育成の長い歴史があり、電通大にその遺伝子があるから」やるんだ！と思って取り組んでいます。

本事業が開始できましたら、皆様のご協力をお願いします。

2025年度 支部総会のご案内

支部総会では、来賓挨拶（電気通信大学長、目黒会長）、前年度活動報告・会計報告、今年度活動計画・予算案、役員改選などが行われます。各支部の総会の予定は下記のとおりです。
なお、支部総会に参加ご希望の方は同封のはがきにて申込みください。

北海道支部

日時：2025年9月27日（土）午後

場所：札幌市内（詳細未定）

特別講演：未定

懇親会：未定

オプションツアー：施設見学会検討中



東北総支部

日時：2025年6月21日（土）13:30～

場所：秋田県立大学本荘キャンパス

特別講演：秋田県立大学山口高康教授 講演タイトル：未定

懇親会：ぼぼろっこ（由利本荘市岩谷町字西越 36）

オプションツアー：鳥海山付近観光



北陸支部

日時：2025年10月18日（土）15:00～

場所：ウエルアオッサ（福井駅隣接）URL：<https://www.wellaossa.com/>

特別講演：未定

懇親会：17:00～（同場所にて）

オプションツアー：検討中



首都圏総支部

日時：2025年9月13日（土）14:30～19:00

場所：電気通信大学100周年記念ホール（オンライン併用）

14:30～総会および来賓で挨拶

15:40～特別講演：国立天文台アルマプロジェクト長 井口聖氏

講演タイトル「宇宙と生命の起源：その最前線そして今後の展望」

17:00～懇親会：大学会館3階ハルモニアにて 会費 5,000 円



長野支部

日時：2025年7月5日（土）15:00～17:00

場所：上田市内 上小漁業協同組合事務所 2 階（上田駅徒歩 10 分）

特別講演：「5G/6G 時代に向けた情報通信技術の最前線」

講師：宮保憲治様（東京電機大学名誉教授 目黒会員）

懇親会：上田東急 REI ホテル（上田駅温泉口）18:00～20:00

オプションツアー：千曲川の川魚料理



東海支部

日時：2025 年 11 月 8 日（土）午後
場所：名古屋市内（未定）
特別講演：未定
懇親会：総会会場と別会場を予定



関西総支部

日時：2025 年 6 月 7 日（土）16：00～20：00
場所：JR 新大阪駅東口前 エブリグランデ新大阪（大城ビル 201 号）
特別講演：電気通信大学副学長 坂本真樹教授
講演タイトル「電気通信大学の知名度向上のための広報戦略について」
懇親会：18：00～ 海鮮さくら水産（予定）会費 5,000 円



中国地方支部

日時：2025 年 6 月 28 日（土）15：30～
場所：広島駅前 エールエールA館会議室（オンライン併用）
URL：<http://www.rccbc.co.jp/kaigi/yaleyale/>
懇親会：梅の花（エールエール A 館 11 階）



四国支部

日時：2025 年 9 月 6 日（土）13：00～17：00（予定）
場所：マイントピア別子（愛媛県新居浜市立川町 707-3）
URL：<https://besshi.com/>
見学会：別子銅山遺跡見学会（端出場エリア）を計画中
懇親会：同一会場にて BBQ 懇親会
同伴家族、女性は会費無料です。
オプションツアー：東平エリア（東洋のマチュピチュ）バスツアーを検討中



九州支部

日時：2025 年 10 月 4 日（土）16：00～19：00
場所：八仙閣 本店（〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2 丁目 7-27）
URL：<https://8000.co.jp/>
特別講演：麻田直人先生（北海道支部所属）
懇親会：同一会場にて



一般社団法人目黒会 第82回定時総会 開催報告

目黒会事務局

2025年5月23日（金）、創立80周年記念会館（愛称…リサージュ）3階において、西岡電気通信大学理事による総会記念講演に引き続き、午後4時より一般社団法人目黒会第82回定時総会を開催いたしました。代議員30名中、出席者22名、議長委任8名、合計30名の出席率100%で定足数を満たし、総会が成立しました。定款の定めるところにより森目黒会長を議長とし、議案審議に入りました。

第1号議案の「2024年度の事業報告並びに財務諸表について」は、地域貢献事業、就職支援事業、同窓会事業、会員サービス事業などの事業計画に対する実施報告後、2024年度の決算財務諸表、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録などが説明されました。説明後、

2025年度 目黒会役員（理事・監事）一覧

役職名	氏名	入学年	入学学科
会長	森 淳	1967	通信工学科
副会長	高橋 真之	1986	通信工学科
副会長	中村 憲一	1991	機械制御工学科
副会長	古川 浩規	1997	情報工学科
専務理事	水戸 和幸	1995	電子情報学科編入学
業務執行理事	帯金（オビカネ） 幹夫	1971	物理工学科
業務執行理事	上田 敏樹	1972	電子計算機学科
業務執行理事	保澤 伸行	1974	機械工学科
理事	鷺頭 浩一	1977	応用電子工学科
理事	陳 肇文（チン・ショウブン）	1979	応用電子工学科
理事	中里 明子	1981	機械工学第二学科
理事	青木 実	1982	通信工学科
理事	島崎 俊介	2008	情報通信工学科

監事	三木 哲也	1961	電波工学科
監事	芳賀 克己	1965	電子工学科
監事	菅谷 寿鴻（トシヒロ）	1965	電波工学科

監事より監査報告がありました。第2号議案の「当期正味財産額の処分について」の説明がありました。議案毎に一括審議を行い、第1号議案、第2号議案はすべて承認可決されました。引き続き報告事項に入り、2025年度目黒会活動方針、2025年度事業計画並びに損益予

算書について報告がありました。2025年度の理事・監事の役員は別表のとおりです。総会懇親会は大学理事との交流を図ることも含めて大学会館3階ハルモニアにて開催いたしました。

列になることに気づき、これをもとに等比級数の和の公式というちょっとした数学的知識を用いて、よりよい π の近似を得たということです。このようにちょっとした数学の道具を調味料として加えることにより、計算精度を改善することができるのです。これが数値解析の醍醐味であり面白いところであると私は思います。

2. 私の数値解析研究について

それでは、これから私がどのような数値解析の研究をしているか、紹介します。

数値解析分野では変数変換の技法というのがありまして、主に数値積分に用いられてきました。変数変換を用いた数値積分とは次の数式で表されるものです。

$$\int_a^b f(x) dx = \int_{\varphi^{-1}(a)}^{\varphi^{-1}(b)} f(\varphi(u)) \varphi'(u) du \doteq h \sum_k f(\varphi(kh)) \varphi'(kh) \quad (h \text{ は正の定数})$$

つまり、計算したい積分に対し変数変換 $x=\varphi(u)$ を施して刻み幅 h の台形則で近似計算をするのです。台形則は素朴な数値計算法と思われるかもしれませんが、ある種の積分に対しては驚くほど高精度を発揮します。そのような台形則が有効な積分になるよう、変数変換でもとの積分を変換するのです。

変数変換を用いた数値積分法として代表的なものが、DE 公式です。これは「DE 変換」により全無限区間積分に変換して台形則で積分を近似計算します。台形則は解析関数の全無限区間積分に有効であり、高精度の近似積分値が得られます。ちなみに、DE 公式は高橋秀俊・森正武の両先生が考案・発表し、数値解析における日本人による偉大な功績の一つです。さらに近年では、DE 変換は数値積分以外の数値計算、例えば積分方程式、微分方程式、行列関数の計算などにも応用されています。

私が研究しているのは、もう一つの変数変換型数値積分公式である IMT 公式（正確にはその改良版である IMT-DE 公式）です。これは、計算したい積分を「IMT 変換」により、被積分関数とそのすべての導関数が積分区間端点で零になるような有限区間積分にして、台形則で積分を近似計算します。このような積分に対して台形則は有効ですから、高精度の近似積分値が得られます。私は、DE 変換と同様、IMT 変換も数値積分以外の数値計算に応用できることを見出し、それに基づく種々の近似計算法を考案・発表してきました。とくに常微分方程式の解法について記した論文は、日本応用数理学会論文誌論文賞（理論部門）を受賞でき、大変栄誉なことであります。

DE 公式、IMT 公式いずれも、台形則の性質そして変数変換という二つの「数学」を用いて高精度計算を得ています。これが数値解析の面白さだと考えます。

私がもう一つ大きな研究テーマとしていることに、数値解析と複素関数論の関連性があります。これは私の師である森正武先生の研究テーマでした。この研究は元来数値積分に対して行われました。実際の科学技術計算によく現れる解析関数の数値積分に対し、その積分は複素関数論における複素積分で表されます。それを用いると、被積分関数の解析性（特異点の位置など）に関する情報から数値積分誤差を理論的に見積もることができます。実は DE 公式もこのような数値積分の複素関数論的解析により設計されました。この研究は、実学の最たるものである数値解析に数学が見事に応用された一例であり、学生の頃私はこの鮮やかさに接して大変感動しました。

この数値解析と複素関数論の関連性を私はさらに突き詰め、佐藤超函数論に基づく数値解析という研究をいま行っています。佐藤超函数論は佐藤幹夫先生が考案した複素関数論に基づく一般化関数の理論であり、これによれば微積分など様々な数学的計算は複素積分で表示することができます。私の研究は、これらの複素積分を直接計算することにより数値計算を行うというものです。実数計算を複素数を用いて行うとは遠回りなことに見えてしまうのですが、複素解析関数の性質をフルに利用して高精度計算を行おうと目論んでいるのです。これまで数値積分、フーリエ変換などで成果を得ております。この研究をどこまで発展させられるか、これは私の一番の関心事です。

3. 研究室について

2024 年度、私の研究室には M1 生がひとり、学域生がふたり所属しております。私は学生達にあれこれ干渉するのは好まないで、学生達の自主性に任せております。そうしたら、学生自身で色々文献を勉強したりして、指導教員たる私が知らないようなことまで調べてきて研究に反映させているので、大変頼もしく思います。私は学生達が数値解析をエンジョイしてくれることを願っております。



緒方秀教研究室

数値解析の面白さ

1. 数値解析とはどんな学問か

私の研究分野そして研究室で研究していることは、「数値解析」です。

数値解析とは何か、表向きの説明では、科学技術研究に現れる数学的問題をコンピュータで解く方法を研究する学術分野ということになっています。一方、私自身はどういうスタンスでこの研究をしているかと正直に言えば、「数学で何か面白いことはできるか?」ということです。

「面白いこと」とはどういうことか説明するために、江戸時代の和算家、関孝和先生の円周率計算を例に挙げましょう。円周率 π の計算は古代では、円に内接する正多角形の周長を計算することにより求められました。半径0.5の円の周長が π です。その円に内接する正多角形の周長を求めれば、それが円周率の近似値となります。半径0.5の円に内接する正 2^n 角形の周長を π_n とすれば、これは初等幾何学的計算で求めることができ、次のようになります。

$$\begin{aligned}\pi_{10} &= 3.14158\ 77252\ 77159\ 77062 \quad (\text{相対誤差 } 2 \times 10^{-6}), \\ \pi_{20} &= 3.14159\ 26535\ 85093\ 23106 \quad (\text{相対誤差 } 2 \times 10^{-12}), \\ \pi_{30} &= 3.14159\ 26535\ 89793\ 23398 \quad (\text{相対誤差 } 1 \times 10^{-18}),\end{aligned}$$

円周率 π と数字が合っている桁に下線を付しました。関先生は $n=17$ まで計算したそうです。

関先生はこれらの計算結果からある事実気づきました。それは、 $\pi_{n+1} - \pi_n$ が公比0.25の等差数列に近づくということです。コンピュータのない時代にこれに気付いた関先生の眼力には感服するばかりです。この事実を元に関先生は次の計算をしてより良い円周率の近似値を求めました。 $r = (\pi_{n+1} - \pi_n) / (\pi_n - \pi_{n-1})$ において、

$$\begin{aligned}\pi &= \pi_{n+1} + (\pi_{n+2} - \pi_{n+1}) + (\pi_{n+3} - \pi_{n+2}) + \cdots \\ &\doteq \pi_{n+1} + (\pi_{n+1} - \pi_n)(r + r^2 + r^3 + \cdots) = \pi_{n+1} + (\pi_{n+1} - \pi_n) \times r / (1 - r)\end{aligned}$$

が得られます。2段目で高校数学で習う等比級数の和の公式を用いました。これに $r = (\pi_{n+1} - \pi_n) / (\pi_n - \pi_{n-1})$ を代入して整理すると、

$$\pi \doteq \pi'_n = \pi_{n+1} - \frac{(\pi_{n+1} - \pi_n)(\pi_{n+2} - \pi_{n+1})}{(\pi_{n+2} - \pi_{n+1}) - (\pi_{n+1} - \pi_n)}$$

が得られます。これは π_n より精度の高い π の近似値になると期待されます。実際に π'_n を計算してみると、近似 $\pi \doteq \pi'_n$ の相対誤差は $n=10$ で 5×10^{-14} 、 $n=20$ で 4×10^{-26} 、 $n=30$ で 4×10^{-38} となっており、もとの π_n より近似の精度が上がっていることがわかります。

ちなみに、上の計算法は現在ではエイトケン (Aitken) 加速とよばれます。これは1926年にエイトケンがこの計算法を発見したことにちなんでいます。ところが、関先生が上の計算を行ったのは1680年であり、エイトケンの発見より200年以上も前のことです。つまり、エイトケン加速を最初に考案したのは関先生であると言えます。この事実に気づいたのは日本人でなく、数値解析の大家ブレジンスキー (Brezinski) であるとか。我々日本人は歴史上の日本人の功績をもっと高く評価し、誇りに思うべきでしょう。

さて、関先生が何をやったのかというと、円周率 π の近似数列 π_n に対しその階差数列 $\pi_{n+1} - \pi_n$ が等比数

Unique &
Exciting

研究編

秋田 学

大学院情報理工学研究科 機械知能システム学専攻
情報理工学域Ⅱ類（融合系）准教授
<http://akita.lab.uec.ac.jp/wordpress/>



秋田学研究室

利用可能なリソースを最大限に活用する
レーダ計測技術の研究

研究室の概要

秋田研究室では、電波センシング（いわゆるレーダ）の基盤技術に関する研究を行っています。2013年の着任以降、「稲葉・秋田研究室」として独自の変復調方式や信号処理を提案し、シミュレーションや電波暗室実験、フィールド実験などを通じてその有効性を実証してきました。2022年3月に稲葉教授が退官された後は「秋田研究室」として、車載レーダから自然科学観測への応用など研究対象を広げています。当研究室では、限られた周波数帯域やハードウェア資源、観測対象・環境に関する事前知識といった多様なリソースを最大限に活用する新たな信号処理手法を開発し、探知距離や距離分解能などのレーダの基本性能向上を目指しています。また、レーダの信号処理技術をベースデブリの光学観測に応用する研究も進めています。

最近のトピックス

レーダの計測では、帯域幅・観測時間・アンテナ素子数・送信電力といったリソースが有限であり、これらの制約が探知距離や精度に直結します。一方で、応用によっては部分的に性能が過剰であったり、有効に利用できていないリソースや計測対象やデータに関する事前知識

（これもリソースと考えます）を活用できていない場合もあります。そこで当研究室では「限られたリソースのもと、計測対象・データに関する事前知識等を活用しどこまで性能を高められるか」を主眼に研究を進めています。近年注目されている圧縮センシングも、対象がスパースであるという事前知識を信号処理に組み込んだものと解釈できます。まずはターゲットや環境の物理特性に基づき、不要に未知数を増やさず、モデルを極力シンプルにすることで推定分散の下限値CRLB（クラメルラオの下限）を抑え、必要に応じて事前知識を推定規範に組み込むことを検討しています。さらに、性能向上に寄与する事前知識の定量的評価指標の構築も重要な研究テーマと考えています。

最新の研究紹介

計測対象に関する事前知識に基づくモデルのシンプル化と時間というリソースを活用した信号処理の結果として、図2(a)に歩行するヒトをターゲットとしたレーダの計測例を示します。レーダでは全観測時間を信号が定常と見なせる解析時間窓（CPIと呼びます）に区切って信号処理を行うことが基本です。CPIを長くするとコヒーレント積分効果による信号利得が得られS/Nが改善しますが、加速度成分

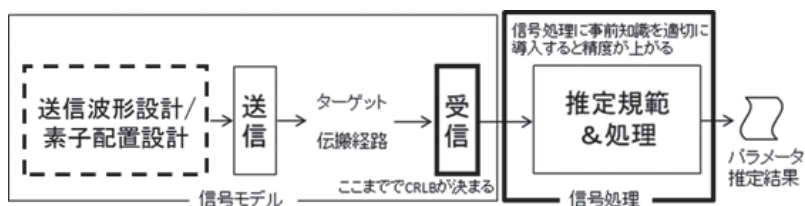


図1 研究の簡易概念図（現在研究テーマとしているのは太線枠の部分、点線枠は今後の研究テーマ）

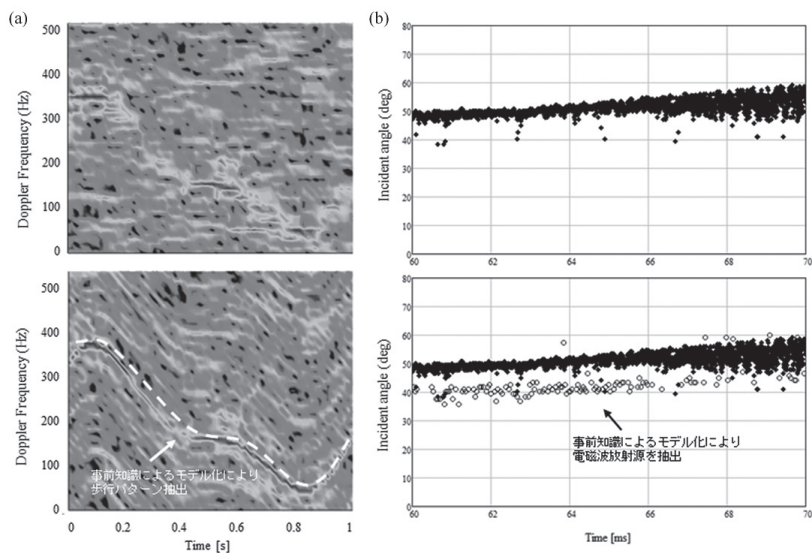


図2 事前知識導入前後（上：事前知識なし、下：事前知識あり）による推定精度・検知性能の改善（(a) 歩行するヒトのドップラ周波数検出結果、(b) 雷放電に伴う電磁波放射源の検出結果）

を含むターゲットが計測対象の場合、CPIは短くせざるを得ません。一方で計測データが「歩行するヒトである」という事前知識からスペクトログラムは歪んだ周期信号として現れスペクトル成分は基本周波数の高調波成分のみとなり、それ以外の周波数成分はパラメータとし

て推定不要であることが明らかです。さらにスペクトログラム全体の形状により個々のCPIに含まれる加速度成分が推定でき、個々のCPIのドップラ周波数の推定精度の改善が期待されます。これを再帰的に実行することにより検知性能が改善されることを実験的に明らか

にしています。また、図2（b）に示す雷放電からの電磁波放射源をターゲットとしたレーダ（こちらは送信無のパッシブレーダ）による計測では、過去の雷放電に関する別の研究結果より、電磁波放射源は同時に二か所から且つ大きな電力差があることが知られています。これをモデルに組み込むことにより通常のフリー変換（ビームフォーミング）では検出できなかった電磁波放射源の推定が可能であることを実証しています。

今後の展望

近年、レーダ信号処理には圧縮センシングなど多様な手法が注目されていますが、基本性能や理論的精度限界は観測データのモデル、データ品質によって決まります。そのため、周波数設計やアンテナ配置といった信号処理以前の段階で性能が定まるともいえます。今後は、限られた帯域幅やアンテナ数、開口長といった制約の下で、単位観測時間あたりに得られる情報量やエントロピーの減少に基づく最適設計を行い、リモートセンシングやレーダ応用分野の観測システム設計に資する基盤技術の確立を目指します。このようなアプローチにより、送信側・受信側双方でのリソースの効率的活用が可能になると考えています。

Unique &
Exciting

研究編

森重 功一

大学院情報理工学研究科 機械知能システム学専攻
情報理工学域Ⅲ類（理工系）教授<http://www.ims.mce.uec.ac.jp/>

森重功一研究室

付加価値の高い生産システムを目指して

1 研究室の概要

機械知能システム学専攻 森重研究室は、機械加工を高精度・高能率化するための情報処理技術の研究開発に取り組んでいます。特に、3次元CADのデータに基づいてCNC工作機械を制御するためのNCプログラムを算出するCAMソフトウェアの開発については、国内では屈指の存在であると自負しています。

2002年3月から現在までの23年間で、学部・学域103名、博士前期課程56名、博士後期課程1名が卒業しており、卒業後も様々な現場で活躍しています。研究室のモットーは、「実際に利用される可能性のない研究は、工学としては無意味」という考え方であり、開発した技術の実用化を見据え、国内の工作機械および切削工具のメーカーやCAD/CAMベンダーとも積極的に交流しています。

研究の大きな方針として、工作機械、制御装置、切削工具などのハードウェアを高度に連携させるためのソフトウェア技術を開発することによって、付加価値の高い機械加工を実現することを目的としています。研究内容はソフトウェアの開発が中心となっていますが、計算機シミュレーションだけで終わることなく、最新の工作機械を用いた加工実験まで行うことにより、実践的な検証をしていることも本研究室の強みであると考えています。

2 研究内容の紹介

5軸制御工作機械は、工具の位置を制御するXYZの直進3軸に、工具の姿勢を制御する回

転2軸を追加した工作機械であり、その高い自由度が注目され、生産性を高めるために有用なツールとして世界中で導入が進められています。工作機械で使用される工具は多種多様ですが、本研究室では、図1に示すエンドミルという工具を用いた加工を研究の対象としています。図2に示すのは、研究室で使用している5軸制御マシンングセンタと、図1(a)のボールエンドミルを用いた、インペラと呼ばれる羽根車の加工の様子です。このインペラの加工は、オーブンキャンパスでも公開していますので、是非一度、見学に来てください。

日本は、工作機械や産業用ロボットなどの生産機械を生産する技術については、世界最高水準のものを保持していますが、それらを動かして利用するための技術については、未だに多くの課題を抱えています。従来から、ハードウェアと比較してソフトウェアの技術を軽視する風潮が強かったため、生産活動を支援するソフトウェアの研究・開発・実践については、欧米と

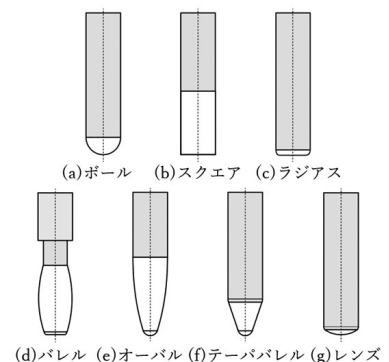


図1 エンドミル工具の例

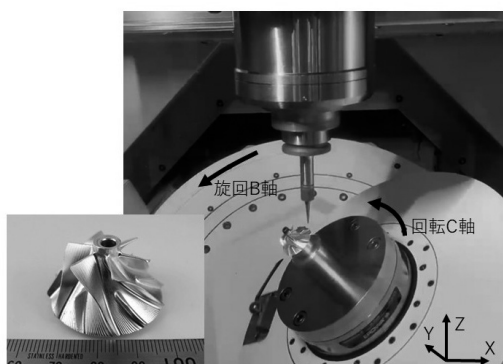


図2 5軸制御マシンングセンタによるインペラの加工

比較して決定的に遅れています。5軸制御工作機械を利用した加工においても、複雑な構成の機械を適切に動かすために必要となる様々な情報を計算するためのソフトウェア技術が立ち遅れているため、ユーザーが意図する5軸制御加工を実現することが非常に困難になっています。本研究室では、この5軸制御加工に関するソフトウェア技術の開発に、特に力を入れています。工作機械の動きは、加工に対してユーザーが意図する戦略に基づいて決定されます。この戦略のことを、本研究室では「加工戦略 (Machining Strategy)」と呼称しています。5軸制御加工における加工戦略としては、工具や機械構造に対する干渉や機械のオーバートラベルの回避など不可欠なもの他に、工具姿勢の連続性の考慮や機械運動の最適化など、加工の精度

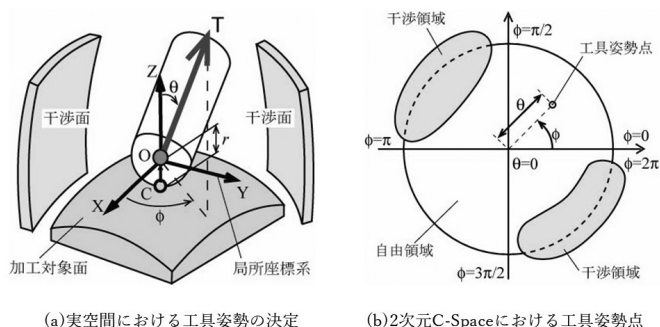


図3 2次元コンフィギュレーション空間の構成

や効率を向上させて差別化を図るための様々な戦略が考えられます。本研究室では、多種多様な加工戦略に対応できるツールとして、図3に示すような切削点における工具姿勢と干渉の関係を表すコンフィギュレーション空間 (Configuration Space、以下C-Space) の利用を提案しています。図3 (a) の実空間における工具の姿勢は、図3 (b) のC-Space上の点と一対一で対応しています。このC-Space内に工具周辺の障害物を写像し、さらに加工に適する工具姿勢や不適切な工具姿勢などの情報を付加して、最適な工具姿勢の決定に利用しようというもので

です。

これまでに、図1 (a) (c) に示すボール、スクエア、ラジアスなどの汎用的なエンドミルを対象として、様々なC-Spaceと、それに基づいた工具経路生成手法を提案してきました。近年、加工の効率化を図るために、図1 (d) (g) に示すように外形に大径の切れ刃を持つ異形工具が提供されるようになってきました。このような異形工具を5軸制御することによって、ボールエンドミルを用いた従来の加工と比較して、工具経路の大幅な短縮が実現できます。このような新しい5軸制御加工に対応するために、C-Spaceの表現方法を拡張し、それを用いた工具経路生成手法についても開発を進めています。

3 おわりに

ものづくりのためのハードウェアやソフトウェアの低価格化が急速に進んでおり、そのようなものづくりツールを、個人で持つことができるようになりつつあります。専門的な知識を持たない人でも、自分がつくりたいものを、安全に、楽しく、自分自身でつくり出すことができる。そのようなものづくりのあり方について、積極的に提案していきたいと考えています。付加価値の高い生産技術の開発はもちろん、これからの人材に適したものづくりのあり方についても真剣に向き合う必要があります。そのための具体的な活動を産業界に提示し、これからのものづくりを支援していける研究室でありたいと考えています。

Unique &
Exciting

キャリア編

河端 保志

2008年知能機械工学科入学

株式会社TWOSTONE&Sons 代表取締役CEO

「日本の不合理な常識を打ち壊したい」 学生起業ベンチャーの歩み

なぜ電気通信大学大学院在学中に起業したのか

高校時代は自身の将来として、漠然とロボットなどといった最先端技術を開発できるようなエンジニアになろうと考えていました。その目標を達成するために、技術力や先輩学生の優秀さ、また教授陣の知見の高さなどといった様々な魅力を感じたことから、電気通信大学への進学を決めました。

私は大学院まで進学したのですが、大学では知能機械工学科、大学院では知能機械工学を専攻しました。数学と物理学が特に好きだったこともあり、大学院では人工衛星の姿勢制御の研究に取り組みました。難易度も高く、満足な研究成果を得るためには色々な壁がありましたが、教授や学友に恵まれたこともあり、充実した学生生活を過ごせたと考えています。

当時の私は「学生という立場は学ぶ上では貴重な期間」だと考えており、また研究もリモートで進められる環境だったこともあって、学業以外にも様々な企業のインターンを経験させてもらいました。大手IT系や人材系の企業で、営業だったり、高校時代に培ったプログラミング経験を活かしたエンジニアなど、様々なインターン活動を行いました。学業とインターンとに忙しかつたという記憶があります。

インターン活動を通して、より視野を広げたいという思いが湧き、アメリカのシリコンバレーの企業の見学にも行きました。世界から日本を客観的に見られると思ったのです。

今思えば、この経験がその後の私の人生を変えるきっかけとなったといえるかも知れませんが、シリコンバレーに行って色々な気付きを得ましたが、その中で衝撃的だったのは、アメリカの

エンジニアは報酬が高いこと。一方で日本のエンジニアの価値が世界から見ても低いことにショックを受けました。

スマホが普及していくことが想定される中、日本においても今後ますます必要とされるであろうエンジニアを取り巻く不合理な常識に疑問を抱き、気づけば入学前の志向が180度変わり、起業を意識するようになっていました。

**運命となる出会い、
価値観を変えてくれた大事な仲間たち**

様々なインターンを経験する中で、起業を決意する出会いがありました。それは私が現在代表取締役CEOを務める会社の共同代表であり、代表取締役COOの高原です。ある企業の面接を受けた際に彼はインターン生として既に働い



写真右：著者、写真左：当社共同代表の代表取締役COO 高原氏



ていたのですが、私の面接でのやり取りを聞き、私の営業力に魅力を感じてくれたようでした。高原も起業を考えていたこともあり、私に対し独特の口説き文句で「一緒に死のう（意訳…一緒に起業しよう）」と声をかけてくれたことをきっかけに株式会社TWO STONE & SONSを創業しました。2人で5万円を持ち寄って出資金10万円からスタートした当社は、メンバーたちにも恵まれ、ありがたいことに創業から7年でマザーズ（現…グロース）市場に上場し、11年で

売上高100億円を超える企業に成長しました。フリーランスエンジニアと企業のマッチングサービスを中心に、マーケティングやコンサルなど、多岐にわたるサービスを展開しております。

私は元来「夢」というものが持てない人間です。頑張れば到達できる「目標」とは違って、「夢」は頑張ってもやうやく5%の確率で叶うものと定義しているからです。ですが、共同代表である高原ははっきりとその夢を口に出していくタイプです。私は目の前の目標に突き進むことは得意ですが、会社を経営するにあたってその高原の語る夢に背中を押されてきたように思います。

高原だけでなく今はメンバーたちも増え、グループ全体で500名規模の大所帯となりました。それでも、私はいつまでたっても創業当時の感覚のままのように思います。自分だけの秘密基地をつくり、今は仲間と共にその秘密基地をどんどん大きくしているような、起業当時のワクワクした感覚のままです。

一方で抱えるものは大きくなったと考えています。正直なところ、以前の私は自分のことに精一杯で他人のことなどは考えることができませんでした。でも今は、私も経営者として成長できたのか、周りの大事なメンバーが私の会社での経験を糧にして、社会に貢献できるような人材になってほしい、そういった人材を育てることのできる環境を提供していきたいと考えています。

学業とその後進路が

私を人として大きくしてくれた

私にとって、電気通信大学で得た知見や人間関係や経験を契機として、起業し今こうして大

切な仲間恵まれていることは、大変幸せなことだと思っています。これからも私の座右の銘である「初志貫徹」を胸に、不合理な常識を打ち壊し新しい価値を世の中に提供し、日本に貢献できるような会社へと成長させていきたいと思っています。

後輩である学生の皆さんは、良い意味で失うものがまだありません。家庭を持つ社会人と比べてリスクが少ないし、そして何かをやり遂げる体力がある。ぜひ、今の環境をポジティブに捉え、興味あることにはとにかく挑戦してみたいと思いますし、当社でのインターンという選択肢もあります。

同輩である皆さんもまた、自分が取る選択肢の一つ一つで人生は大きく変わり、そして自分を人として大きく成長させてくれることと思います。

卒業生の皆さまはエンジニアとして活躍されている方も多くかと思ひ、少し当社の紹介をさせていただきます。

世の中はこれからハードからソフトに変革していく時期であると確信しており、そんな中、当社はソフト分野のITエンジニアを中心に支援しております。当社としてはITリソースにお困りの方に対しての人材支援はもちろんのこと、当社グループのITエンジニアとして、あるいは今後さらに市場価値が高まるプログラミングの知見もあるビジネス職など、様々なポジションを求めています。ご興味のある方はぜひお問合せいただければと思います。

電気通信大学卒業生としての誇りを持って、それぞれの活躍できるフィールドで羽ばたいていきましょう。

Unique &
Exciting

キャリア編

本下 昌彦

1978年応用電子工学科（T）入学
MSS-New York, Inc. プロジェクトマネージャー
フリーランス リサーチャー/ネゴシエーター

通信放送分野から 様々な国際ビジネスへの挑戦

電通大への進学のかっかけ

小学校高学年当時、大阪市内に住んでいた私は電気街「につぼんばし」に通い詰め、真空管ラジオを独学で製作しました。又ラジオ雑誌で読んだ第17次南極越冬隊芳野越夫隊長（電通大1期生）のオーロラに関する記事が、無線通信や宇宙物理学への関心を掻き立ててくれました。

在学中の思い出

入学した1978年の電通大は国立二期校単科大12学科最後の年であり、个性的で先端情報通信分野に意欲的な学生が多い環境でした。調布での下宿生活を送りながら、硬式野球部や工学研究会に所属し、多くの先輩後輩との絆を深めました。また、旧文部省肝入りで完成した五思寮第一期生として学問、スポーツ、文化活動を共有する充実した日々を過ごしました。卒業研究では長年の夢だった芳野・富澤研究室で宇宙電波物理学に取り組み、NASA仕様の衛星追尾可搬局を備えた菅平研究所でテレメーター学習とスキーが出来たことも良い思い出です。

進路選択にあたって苦労したこと

入学当初から取得目標にしていた第一級無線技術士（通称1技）は大学3年で全科目合格しました。特に電波法に詳しいと言うことで、のちの通信放送分野への就職面接時に役立ったかもしれません。また、応用電子工学科にて、80、90年代の日本経済をけん引した宇宙通信、半導体、原子力、情報工学分野等への貴重な教育を受けることができました。学問、部活、就職活動や家庭教師の両立に苦労しましたが、先輩の

方々のご指導の下卒業できました。今思えば学生時代しかできない事は出来る限り努力した気がします。

電通大卒業後、通信放送業務とBTA、ARRIBでの兼務

電通大を卒業後、私は大阪のMBS毎日放送に技術職として入社しました。人事部から1技を既に持っているので無線業務ではなく、主にテレビ番組制作技術に集中する辞令を受け、「ザ・ベストテン」「東芝日曜劇場」「センバツ高校野球」「駅伝」など、多彩な番組制作に携わりました。その後、テレビやラジオ放送設備の設計、運営、映像伝送技術の開発、電波法令書類管理など、業務の幅を広げていきました。日本初の全固体化放送機（テレビ10KW・ラジオ50KW）の設置工事や衛星テレビ中継基地局中継車、放送局本社スタジオの設計運営といったプロジェクトチームにも加わりました。入社当初、MBSの開局に深く関わった豊農裕孝氏（昭和24年新制本科卒）とは、意義深い出会いとなりました。豊農氏は、1951年日本初の民間放送局であるNJB新日本放送の開局を成功させた先駆者であり、その後もMBS毎日放送のTV開局にも携わり、放送業界の技術的礎を築いた人物です。さらに、44年後インターネット元年1995年の関西インターネット研究会設立総会において、豊農氏が「大変な時代になる」と断言されたお言葉は、私の新たな挑戦への決意を固めるものとなりました。また、1986年文化放送の海老沢政良氏（電通



大3期生)が座長だった日本初となるBTA(放送技術開発協議会)のAMステレオ放送試験電波発射(1KW)で無線従事者として加わった経験も、貴重な学びをもたらしました。その後1995年、BTAから移管したARIB(電波産業会)では、デジタル素材伝送小委員会の標準化審議委員とOFDM映像通信機器の開発作業員を務めました。さらに、1998年の長野五輪では、芳野研究室一年後輩のTBS青木葉吉樹君と共に閉会式の国際映像制作を技術ディレクターとして担当。芳野研OB2人が全世界に向けた映像配信に貢献したことは、放送技術者としての誇りとなる大きな成果でした。

ニューヨーク大学への進学から現在まで

こうしてデジタル通信技術やインターネット分野の未来を実感し、ニューヨーク大学大学院Interactive Telecommunications Programへ進学しました。当研究室では、IP技術、UI、デジタルビジネスモデルを学び、2001年5月卒業後にはMSS-New Yorkを設立しました。起業後は、英単語学習アニメ制作やMLBYankiesの生中継、東映映画米国側プロデュース、ビデオ業務マニュアル制作など、マルチメディアプロジェクトを展開。その後、リーマンショックをきっかけに各種国際展示会PR&運営や医療電子機器の米国マーケティング支援にも注力しました。電通大同級生で神奈川工科大学丸山充教授の紹介で、2016年ITU-T eHealth部会での標準化アドバイザーを担当。日本の国際標準化案件として、IPを活用した

非圧縮8Kリモート内視鏡の標準化を成功させました。又SC(スーパーコンピュータティング会議)にて、丸山教授の日米間非圧縮8K伝送実験を複数年、米国側のサポートをし、IP技術革新を深化させました。残念ながら2020年1月COVID-19の影響でマンハッタンオフィスを閉鎖し、ニューヨーク州アップスタートの州立公園内に避難してリモート活動に変更。Starlinkの導入や4K対応CCTVシステム、スマートホームの設計・施工に従事する一方、AIトレーナーとして新分野への挑戦を続けました。現在、加えて日系企業の米国研修企画立案運営や米国テストマーケティング販売を行い、幅広い分野での日系企業、個人の米国進出サ

ポートを行っています。

後輩へのアドバイス

AI技術の進化により、ビジネスや職種の変化が加速しています。この時代に対応するには、幅広い知識を吸収し、柔軟性を持ち続けることが重要です。また、全世界の情報の多くは英語です。出来る限り読み書きや英会話を磨くことで英語ビジネス力を高め、世界の多くの情報を直接活用し、デジタル社会でのリーダーシップを発揮できる可能性を高めてください。日進月歩のAIを上手く活用しAIの弱点を克服するため、正確な知識を基にしつつ、人間同士のリアルな交流も大切にしてください。



ハワイで行われたLPGAツアー放送のカメラ撮影担当



マンハッタンの上空をヘリコプターで空撮

目黒会の在学学生支援活動の紹介

電気通信大学同窓会の目黒会は卒業生の支援をはじめ、「電通大と共に歩む」をモットーに在学学生のために多くの支援活動を行っています。

支援活動は、皆様の善意（同窓生の会費、在学学生保護者様の賛助会費など）によって運営されています。これらの支援活動をさらに広範囲に発展、質の向上を図るために同窓生及び在学学生保護者様からのご支援をお願いいたします。

就職支援活動

就職希望者に対しては、大学のキャリア支援センターにある「就職支援部門」と「目黒会の就職支援」の2つの組織が強い連携協力をとりながら卒業生による業界研究会、企業研究展示会等を開催して学生一人ひとりの希望や適性に即した強力なサポートを行っています。

日々の就職相談では、企業での長年の実務経験と専門知識を持った卒業生が、就職希望企業に提出するエントリーシートの

作成指導、実践的な模擬面接等を学生の立場を考えてきめ細かく行っています。



(就職相談)



業界研究会(B棟202教室)



企業研究展示会(体育館)

学会参加費助成支援

学生の研究活動活性化及び研究力向上を目的として、本学に在学する学生の英語による研究発表に対し、国内学会または国際学会の学会参加費を支援しています。選考基準は、大学と連携した「目黒会及び電気通信大学基金助成事業の募集要項」に準拠しています。

学会開催形式は、国内学会または国際学会における対面・オンライン・ハイブリッド形式（対面及びオンラインの同時開催）のいずれも対象です。



学会の発表



(学会参加費助成支援)

学生サークル活動支援

学生正会員向けの活動支援の一環として、学生サークル活動支援を実施しています。目黒会は皆様方個別のサークルと交流の輪を広げ、この活動を通じて同窓生と在学学生との連携協力を図ってまいります。



(学生サークル活動支援)

卒業アルバム制作支援

I類・II類・III類の学生から成る卒業アルバム委員会と連携し、卒業生の思い出となるアルバムの制作に全面的に協力しています。

目黒会賞授与

卒業式・修了式当日に成績優秀な学生約70名に対して目黒会賞の表彰を行い、賞状と記念品を授与しております。



(同窓会賞・目黒会賞)

学位記フォルダ提供

卒業生・修了生全員に学位記を保管する学位記フォルダを提供しております。

“ ぶれなく 一途に挑戦 ”

2010年同窓会賞受賞者

岸 甫 氏

私は第二次世界大戦の直前に石川県で生まれ、小松高校を卒業し電通大に入りました。父親が戦死したので家からの仕送りは無く、大学敷地内の寮に入りましたが、特別奨学金だけでは暮らせません。大学3年に進級の春休みに、学内をぶらついていたら掲示板に、有山正孝先生（後の学長）の出した「理化学研究所（理研）で電子計算機ソフトウェア開発アルバイト募集」の張り紙を見つけ応募しました。理研で相馬嵩先生に電子計算機を学びプログラミングに没頭しました。後に私を、黎明期の数値制御技術の開発と普及の先頭に立たせ、世界の産業の発展に貢献する道に導いたきっかけでした。

就職は、理研に電子計算機を納めていた沖電気工業にしました。沖電気は新入社員の私に、米国企業との技術提携による新規事業の数値制御をあてがいました。入社3年目の1967年に、米国の最先端技術を知る為に半年くらい米国内を視察する機会が与えられました。米国では、工作機械での自動加工は、自動プログラミングを駆使して動く同時多軸輪郭制御の時代でした。米ソの宇宙開発競争に巨大な国家予算が投じられて実用化された数値制御技術を、一般産業にも適用させようと動き出した時期でした。「この最先端技術を日本の一般産業に普及させることが、私に与えられた使命」との思いが固まりました。

帰国後は、体制を整え、工作機械メーカーに数値制御装置を採用頂く事業展開を進めました。市場では富士通の稲葉清右衛門さんと激しく戦いました。お客様からは、「日本に数値制御気違いが二人いる。東の稲葉清右衛門、西の岸甫だ。」と言われました。しかし、沖電気はオイルショックで採算が取れるまでに至っていませんでした。数値制御事業から撤退し、私は稲葉さんが率いるファナックに転籍することになりました。ファナックでは、沖電気時代から手がけていた制御機能を電子回路で実現するハードワイヤード方式から、制御機能をコンピュータプログラムで実現するソフトワイヤード方式に転換できました。お陰様で、今では、日本の数値制御装置と数値制御工作機械と産業用ロボットは世界の最先端を走っています。

目標は、与えられるのではなく自分で見つけるモノです。目標に向かって「ぶれなく一途に挑戦」し続けることは、苦労をも楽しさに変えてくれます。その過程で出会う多くの人達との

人間関係（信頼関係）が一番の財産となるでしょう。私が歩んできた世界は、IOTやAI等を駆使した若い皆さんが率いる時代です。一途な挑戦に期待しています。

私は、毎日の勤めから解放された73歳から絵画を始めました。フランスのル・サロン展や、サロン・ド・トールヌ展にも連続入選するまでになりました。若い皆さんに負けないよう、私の新しい世界への新たな挑戦です。

【受賞内容】

日本の数値制御（NC）工作機械の黎明期からその発展に卓抜なる業績を収められ、なかでもコンピュータによる制御ソフトウェア開発を先導することでわが国のNC工作機械の性能を世界トップレベルまで高めることに大きく貢献をした。

【略歴】

1965年 電気通信大学 電気通信学部 通信機械工学科卒業
1965年 沖電気工業株式会社入社
1972年 沖電気工業株式会社 ソフトウェア事業部 NCグループ 課長
1979年 ファナック株式会社に転籍
1984年 ファナック株式会社 取締役 商品開発研究所副所長
1989年 ファナック株式会社 常務取締役東部セールス本部長
2005年 ファナック株式会社 専務取締役 FA国内セールス統括本部長
2010年 ファナック株式会社 経営顧問 社長補佐
2012年 電気通信大学 監事
2016年 電気通信大学学長特別補佐
2021年 電気通信大学客員教授 現在に至る



2025 年

電気通信大学同窓会賞

電気通信大学同窓会賞とは

電気通信大学は現在までに多数の卒業生を送り出しています。世界の各方面で活躍している卒業生のうち、科学技術の研究業績ならびに社会貢献が特に顕著な方に、電気通信大学同窓会「一般社団法人目黒会」が「電気通信大学同窓会賞」を授与してその功績を称え、同窓生の方々にも広く認めていただくことにしているものです。1995年からこれまでに37人の方々が受賞されています。同窓会賞表彰式は4月4日の入学式終了後に行われ、目黒会森会長から表彰状を授与しました。



かじたに まこと
梶谷 誠 氏

経歴

1964年 電気通信大学電気通信学部通信機械工学科卒業
1971年 東京工業大学大学院理工学研究科機械工学専攻博士課程修了
1971年 電気通信大学短期大学部講師
1989年 電気通信大学電気通信学部教授
2000年 第10代電気通信大学長
2004年 信州大学監事
2008年 第12代電気通信大学長
2014年 電気通信大学学長顧問 現在に至る

梶谷誠氏は、2000年及び2008年に電気通信大学長に任命され、2014年退任後は学長顧問として本学の発展に尽力されています。

梶谷氏は、超精密計測の研究に取り組み、磁気スケールの記録法の確立や実用化に貢献しました。さらに、その過程で開発した超精密自動校正システムは、日本のロータリエンコーダの校正標準となり、FA分野から計測、OA機器、医療機器、航空、宇宙分野へとその用途が拡大しています。また、世界に先駆けて開発した演算式歯形測定機は、現在世界の標準的方式となるなど、氏の研究の先見性は高く、国内外の工業界の発展に多大な功績を挙げました。

「楽力」をモットーにした「ものづくり教育」に情熱を注ぎ、ロボメカ工房等の設立に取り組む一方、大学発ベンチャー企業の創設、コラボ産学官の設立やスーパー連携大学コンソーシアム設立など産学官連携の推進、現在のUECビジョンに繋がる「高度コミュニケーション社会に貢献する」という理念提唱など、教育、研究、大学運営の全てにおいて本学の発展に多大な貢献をされました。



つだくにかず
津田邦和 氏

経歴

1978年 電気通信大学電気通信学部経営工学科卒業
同年(株)リコー入社 新規事業開発部リーダー等歴任
1999年 NPO・ASP インダストリ・コンソーシアム・ジャパン設立 常務理事 技術部会長
2007年 NCRI(株)設立に参加
2008年 任意団体・ネットコンピューティングアライアンス代表
2014年 電気通信大学大学院情報システム設計学専攻博士後期課程修了
2020年 NCRI株式会社 代表取締役社長
2024年 NCRI株式会社 会長 現在に至る

津田邦和氏は、日本のクラウドサービスの黎明期から現在に至るまで研究開発・ビジネス創出と人材育成に重要な貢献をされ、「日本のクラウドの父」とも称されています。

1999年には日本初のクラウド推進団体NPO ASPインダストリ・コンソーシアム・ジャパンを設立し、総務省「公共ITにおけるアウトソーシングに関するガイドライン」「データセンターガイドライン」等の初版策定に従事、2006年にはアジア初のクラウド関連国際会議となる「日韓共同ASP ワークショップ」を事務局長として開催、2007年には総務省「ASP・SaaS普及促進協議会」を設立する等、クラウドという用語もない黎明期から政府と日本の業界の取り組みの方向性とビジネス創出に貢献されました。

また、スマートフォンとクラウドを活用したビジネスの創出と普及を推進するとともに、総務省委員会でデータセンターの消費エネルギーが増大し将来の社会問題となることを提言しつつ、再生エネルギー活用のグリーンエナジーデータセンター技術の発案・創出等、データセンターエネルギー消費低減技術の研究に大きく貢献されてきました。

令和6年度 目黒会賞受賞者一覧 (五十音順)

目黒会賞とは

目黒会賞は各年度の学域卒業生および大学院修了生の内、成績優秀な者として、学内選考委員会によって選考され、電気通信大学長から推薦された方々に、一般社団法人目黒会が表彰するものです。

情報理工学域

学域合計 38 名

I類

大森裕太郎
加藤 陽輝
佐久間理奈
島田 涼平
鈴木 祐貴
長井 元輝
平地 浩一
前田 煌
眞坂 航宙
山下 公平
吉岡優木竹
和久井優大

II類

飯野 静流
上田 恭平
内海 柊人
窪 紘太郎
今野 雄斗
品川 敦哉
高木 初衣
高久 大樹 (総代)
戸田 和孝
中桐幸多朗
中村 早希
堀越 健
前島 脩平
前西 哉飛
山田 一貴

III類

饗場 壮
秋本 哲男
大槻 亮志
甲斐 涼雅
北村 海晴
熊澤 一葉
島田 祥汰
妹尾 駿
月井 翔太
安沢 智聡

先端工学基礎課程 (K 課程)

中村 元昭

情報理工学研究科

大学院合計 32 名

情報学専攻 (J 専攻)

青木 辰磨
佐々木 健
鳥越 湧真
名執 陸
平林 海紘
福岡 美結
山岸 祥大
山田 博瑛

機械知能システム学専攻 (M 専攻)

今井 雄貴
奥崎 功大
金子 泰山
加納 康裕
新川 馨子
野呂 悠紀

基盤理工学専攻 (S 専攻)

磯 大空
草野 達哉
高橋 啓
長尾 康生
中村 亮
芳賀 凧斗
藤谷 諭史
横山 拓磨

情報・ネットワーク工学専攻 (I 専攻)

岩本 有生
大林 溪
奥井 滉史
高野 大晴
椿 葉
寺元 倅紫
照井 貫太
富川 雄斗 (総代)
中嶋 睦月
水野 友暁

御退任記念祝賀会



令和7年3月10日(月)に「令和6年度電気通信大学御退任記念祝賀会」が調布クレストンホテルにて開催されました。

本年は、14名の教職員の方が定年退任を迎えられました。祝賀会は、情報理工学研究科長の仲谷教授の司会で進められ、ご出席の教職員の方がご紹介されました。田野学長のご挨拶のあと、村松理事のご挨拶とご発声で乾杯が行われました。ご歓談のあと、ご退任される教職員の方全員から電気通信大学に来られた当初のエピソードや今日までの研究・教育活動における感想など、感慨深いご挨拶をいただきました。その後、西岡理事から送辞と記念品の授与があり、ご退任される教職員のゆかりの方々からの花束贈呈がありました。

引き続き、目黒会の森会長から感謝の言葉とともに記念品が贈られました。最後に、美濃島副学長から閉会の辞が述べられ、出席者全員で集合写真を撮影し、祝賀会は盛況のうちに終了しました。

田野学長のご祝辞(要約)

本日は、貴重な同僚14名が退任される悲しみの日ではありますが、一方で、新しい人生を踏み出す門出を祝う喜びの日でもあります。これを、皆様とともに楽しくお祝いしたいと思っています。

ところで、私の座右の銘で「なんでも楽しめ」というものがあります。自分自身の中学や高校の卒業式でも、悲しいことは悲しかったのですが、次の新しい世界が開けていると思うとつい楽しくなってしまう、ニコニコしていて母親に叱られたこともあるくらいです。皆様にも、これからの新しい人生では、なんでも楽しんでいただきたいと思います。また、皆様はいま65歳です。日本では平均余命が85歳から90歳程度ですが、健康年齢は75歳程度です。そのた

め、ぜひ「急いで」楽しんでいただきたいと思います。最後にもう一つ。養老孟司氏が、「退職日の翌日の、4月1日の空の色はこんなに青かったのかとびっくりした」と本に書いていました。養老孟司氏のように、仕事を楽しんでいただけた方でも、退職日の翌日の空の青さは格別なのだと。ぜひ、皆様にも4月1日の空の青さを味わっていただきたいと思っています。

本日はおめでとうございます。

村松理事のご祝辞(要約)

本日は「ご卒業」おめでとうございます。皆様、今日に至るまで、長年、本学で留年されていましたが、晴れて最後の単位を取得し、卒業にこぎつけられたことを心より祝福いたします。皆様が留年していたからといって、決して出来が悪かったというわけではありません。むしろ、皆様は電通大というチームにおける優秀なメンバーであり、教育、研究、大学運営などで大きな貢献をされてきたことに対し、心より感謝いたします。

本年は、14名もの教職員が退任することとなります。本学は限られたリソースの中でやりくりしているため、これほどの方が退任されるとあつては、今後が心配にもなるほど、皆様がいなくなられる穴は非常に大きいです。不安は多々ありますが、大学としては皆様なしで進まなければなりません。これまで皆様が築いてこられたものをしっかりと受け継いで、これからは、電通大の厳しくも熱い教育を守っていききたいと思います。皆様には、「ご卒業」後もぜひ、可能な形で本学を応援していただきたく、よろしく願っています。

退任のご挨拶

令和6年度ご退任者

内田	和男	來住	直人
小田	弘	山本	野人
大淵	泰司	永井	豊
伊東	裕也	小林	義男
鈴木	勝	志賀	幹郎

感謝と振り返りのご挨拶



情報・ネットワーク工学専攻 教授

内田和男

1997年4月より28年間にわたり、電気通信大学において様々な活動の機会を賜りましたこと、心より深く感謝申し上げます。これらの活動は私にとりましてこの上なく意義深いものでございました。

着任当初は、新しい環境で戸惑いながらのスタートとなりました。しかしながら、皆様のご支援を賜りながら徐々に研究環境が整い、とりわけ政府の大学発ベンチャー創業促進方針のもと諸先輩方のご尽力により東8号館に設置されましたサテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ（SVBL）のクリーンルームおよび半導体製造・評価装置群が、研究活動はもちろんのこと、学生の皆様への半導体教育にも大いに貢献できたことは、大変うれしく思っています。現在では、海外の半導体ファウンドリーが日本に進出する中、国内でも半導体教育が盛り上がりを見せておりますが、本学において20年以上前からこのような先駆的な取り組みを行っていたことは、非常に誇りに感じております。

また、SVBLの趣旨に添い、半導体関連の

大学発ベンチャー企業を立ち上げることができました。この企業を通して、多くの方々と貴重な交流を重ねることができたことは、私自身の大きな財産となりました。

半導体研究には高価な材料と装置が必要ではありますが、出身企業の日本酸素（現・大陽日酸）をはじめとする企業の皆様との共同研究により、研究活動を進めることができました。さらに、母校カリフォルニア大学バークレー校の先生方のご協力を頂き、本学との協定を締結することもできました。この協定の下、産学官連携ワークショップを日本とバークレーにて交互に開催することができたのは、忘れがたい思い出となっております。しかしながら、この国際協調がコロナ禍により中断したことは、残念でなりません。

最後に、このような活動の場を与えてくださいました電気通信大学に、そして研究に真摯にご参画くださった卒業生の皆様に、改めて深く御礼申し上げます。

誠にありがとうございました。

東3号館からの眺望の如く



情報・ネットワーク工学専攻 教授

来住直人

竣工当時は調布市内で4番目の高さの東3号館、居室がある10階からの眺めは、南西に丹沢山塊の向うに富士山、三ツ峠の隣に高尾山と城山、西には奥多摩の山々とその奥には山梨県の小金沢連嶺、右方の秩父山塊へと続きます。東方には都心の高層ビル群と東京スカイツリー、東京タワーが並び、それらの下には、春になれば野川の桜並木が桜色の帯を見せてくれます。また、北には男体山を始めとする日光連山も望まれる、という具合に学内で最も眺望の良い場所です。ちなみに、以前は東京近郊から男体山が望めるのは年にわずか数日、空気の澄んだ冬の朝に限られていました。その頃は大気汚染がひどく、霞のない冬の日でも空の低い部分に茶色の煤煙が漂い、遠望を妨げていたものです。博士課程を過ぎた都心の大学の居室の机は北向きの窓に面し、都心にしては高層建築が少なかつたその場所からも年に数日男体山が望まれました。後で知ったことですが、その男体山の眺望と大気汚染を関連付ける調査研究も行われていたようです。近年は大気汚染がだいぶ改善され

たためか男体山も一年を通じて良く見えるようになり、冬の好天の日には男体山特有の尾根の模様もはっきり見えることもあります。冒頭で書いたような東3号館からの好展望とは異なり、本学在職中は見通しのきかないことばかりでした。研究に関しては良くも悪くも当初予想とは異なる結果がもたらされ、教育や管理運営の業務も先が見えない中、手探りで進めることが常となっていました。たとえ良い結果が得られたとしても、同じ手が再び通用することは稀で、先が見えない中を延々と進まざるを得ませんでした。そのような中、四季を通じての東3号館からの眺望は大事な息抜きのひとつとなっていました。大学にとってはここ数十年以来厳しい状況が続いていますが、願わくばこの電通大からの眺望の様に、本学の今後の見通しが明るくなることを願います。

謝辞



基盤理工学専攻 准教授

大淵泰司

1995年11月の着任から29年5ヶ月にわたり、電気通信大学にお世話になりました。

その間、多くの諸先輩にご指導、ご鞭撻を賜りました。また、多くの文部事務官その後の事務方の皆様や文部技官やその後の情報基盤センタ一の技師部の方々にも大変お世話になりました。特に、専攻事務室、Ⅲ類事務室の方々には日常的に大変お世話になりました。更にTeaching Assistantとして働いてくれた学生さん達には教育の効果を高める一助として大変貢献してもらいました。

この場をお借りして、皆様に御礼申し上げることができまことに感謝致します。

電子工学と私



基盤理工学専攻 助教

永井豊

私は1986年に当時の電子工学科に助手として着任しました。遠藤耕喜先生と竹内俱佳先生の制御工学研究室でした。しかし私と本学の関係は1978年に当時の電子工学科に学部の学生として入学したとき始まりました。学生時代も含めるとお世話になった期間は47年間になります。学生教員としては多くの先生にお世話になりました。卒研と修士課程では電子

装置工学研究室の長谷川伸先生に大変お世話になりました。のちに本学の歴史を調べることがあって、電子工学科ができたのは1959年であることを知りました。この年は私の生まれた年であったので少し驚き、電子工学科との縁を感じたのでした。その後本学では何度が学科・専攻の改組が行われましたが、「電子工学」は学科・専攻の名前としてしばらくは残りましたが、さらなる改組で学科・類・専攻内のコース・プログラムの名前になりました。この間私自身は一時、人間コミュニケーション学科に属していたときを除いては「電子工学*」に所属していました。改組のたびに実験科目「電子工学実験」の立ち上げに関わってきました。研究分野は電子回路・画像処理・ファジイ制御などですが、最後のテーマは「伝送線路上の複数のLEDのバルスの伝搬遅延と重ね合わせるによる個別発光制御」でした。このテーマのきっかけはある疑問を端緒としています。それは「クリスマスなどで使われるイルミネーションは、多数の電球がすべて直列接続で一箇所に直流電源とスイッチがあるとすると、スイッチを入れたあと電球の点灯の順序はどうなるか。一部の電球が断線していたら何が起こるか」というものです。この47年の間に記録媒体は半導体メモリに発表会はPCと映像プロジェクトになっているのに、発表用ソフトではページをスライドと呼んだり、データ保存のアイコンがフレキシブルディスクだったりするのは興味深い現象です。これから世の中がどのように変化するかわかりませんがそのような環境の中で本学の卒業生や現役メン

バーが活躍することを祈ってご挨拶とさせていただきます。

国際教育センターでの日々を振り返って



国際教育センター 准教授

志賀幹郎

電気通信大学に着任してから月日は流れ、いよいよ退任の日が近づいてまいりました。長きにわたってお世話になりました教職員の皆さまや、学生さん達、また通勤途上ですれ違った調布界限の方々にも深く感謝の気持ちを捧げたいと存じます。

私は、留学生に日本語を教える仕事で雇用されたわけですが、楽しいことをやらせていただいた上に給料までいただけたとあって、実にはありがたいことだと思っております。どんな仕事にもそれなりに大変なことはあると言われます。日本語を教える仕事もそうでしょう。しかし、他の教職員の方々のご苦労とは比較になりません。自分の経験に照らしても、いくつか経てきた他の仕事に比べ恵まれています。外仕事もありましたが、頑健な方ではないので、この齢では辛かったです。

私の所属は国際教育センターです。以前の居室からは白い桜が窓のすぐ外に見え、ラッキーだなあと思っていました。居室が替わり、今の居室からは、南西の方角に剪定された大木が枝を広げているのが見えます。意図的な造形ではないと思いますが、そのシルエットは十字架上のキリスト、あるいは磔刑の義民のようにも。ウエストサイド物語のダンスシーンに見えなくもないですが、やはりキリスト……。それは、退官にあたって、私に懺悔を強いているようにも見えるのです。

懺悔すべきことはいくらでもありそうです。科研費とはいえ人の金、不可解な研究テーマでタイへ、台湾へ、他大学の金で中国へ、ブラジルへ：虚しい成果が風に飛ばされていきます。そして、逃げるように東2号館の東側出入口を出ていくと、夕方の暗がりに同僚の友達と談笑する留学生：いや、その時はもう助手さんか講師になっていた王恋華さんが温和な表情で挨拶をしてくれます。

留学先で命を失うことになった王恋華さんのことだけは忘れずに退官したいと思っております。

最後になりましたが、長谷川テルの遺児、劉曉蘭を迎え入れた電気通信大学の留学生教育に敬意を表し、本学と同窓会の益々の発展を祈念いたします。ありがとうございました。

目黒会グループ会のご案内

電気通信大学同窓生の多くの皆様がグループの活動を通じて同窓生交流を深める活動をされています。目黒会は「目黒会グループ会」という連携窓口組織を設け、グループとの情報交流を進めています。グループ会に登録されれば、活動補助金の交付とあわせて、同窓会誌や目黒会ホームページでグループ活動が紹介されますので、是非ともグループ会への登録をお願い申し上げます。

グループ会のご案内

楽しむ/予定

楽しむ/報告



目黒会グループ会登録一覧（2025年3月31日現在。カテゴリー別登録順。現92グループ）

NO	グループ名	メンバー数	代表者
〈研究室同窓会〉			
1	古荘研究室OB・OG会	19	仁科 雅弘
2	IEゼミ *1	552	志賀 智一
3	ヒトヨシ会（坂本和義研究室同窓会）	252	水戸 和幸
4	長森研OB会	25	金子 文雄
5	尾内・林研究室 OBOG 会	50	簡石 賢央
6	小島研OB・OG会	44	小島 年春
7	萩野研OB・OG会	200	高木 国男
8	田中基康研究室	45	田中 基康
9	石川・結城研究室OB会	323	結城 宏信
10	江木研究室同窓会	31	江木 啓訓
11	下条・明研究室OBOG会	500	下条 誠
12	水戸研究室同窓会	101	水戸 和幸
13	奥野研究室同窓会	12	極檀 紘希
14	小池研同窓会	99	小池 卓二
15	柏原昭博研究室同窓会	20	後藤 充裕
16	角田・赤池研究室同窓会	230	石原佐和子
17	山本佳世子研究室同窓会	23	金井 治樹
18	三木・來住研OB・OG会	8	松浦 基晴
19	山藤研同窓会	9	三宅 基夫
20	植野研究室同窓会	60	宇都 雅輝
21	宇都研究室同窓会	22	宇都 雅輝
22	通機会（機械系研究室卒業生）	500～1000	小柳 洋
23	梶本研究室同窓会	40	梶本 裕之
24	美濃島・浅原・加藤研究室同窓会	52	加藤 峰士
〈企業同窓会〉			
1	電気通信大学企業家懇話会（略称：EATEC（イーテック））	57	藤崎 正範
2	松下調布会関西	42	吉田 純
3	JR東日本目黒会	113	浦壁 俊光
4	シャープ目黒会	20	宮澤 友和
5	IHI電通大OB・OG会	82	原 祐樹
6	AT-UEC会（NTT-AT社内OB会）	96	高橋 真之
7	ドコモ目黒会	130	安部 成司
8	3M電通大OB & OG会	19	大橋 学
〈サークル同窓会〉			
1	素光会（剣道部同窓会）	288	木村 裕之
2	自動車部OB会	80	中川 悟
3	ラグビー部OB会	200	小宮 幹夫
4	ワンダーフォーゲル部OB会	170	小柳 洋
5	ヴェルテン会（管弦楽団OB S33年代）	22	兒玉 敦行
6	陸上競技部後援会	121	小野寺 順
7	英会話部OB・OG会	33	遠藤 直樹
8	硬式野球部OB会	164	西田 知弘
9	学友会執行委員会08,09 OB会	60	島崎 俊介
10	とり松友の会（管弦楽団OB S57卒）	22	竹田 智彦
11	ヨット部同窓会（黒艇会）	180	木下 敬裕
12	東洋哲学研究会同窓会	30	鯨井 源一
13	短大バスケットボール部OB会	50	羽角 和正
14	フェリシア会（競技ダンス研究部OB・OG会）	356	齋藤 和夫
15	柔道部OBOG会	20	淵 佑介
16	軟式野球サークルたまあ〜ずOB会	100	石橋 融

NO	グループ名	メンバー数	代表者
17	体育会バレーボール部 OB・OG会	100	大和いずる
18	海洋部OBとその仲間たち	20	麻田 直人
19	親岳会（短大山岳部）	29	坂本 薫
20	グリークラブOB会	484	宮本 美則
21	ゴルフ部OB・OG会	80	赤澤 隆
22	バスケットボール部とげぬき会	45	水町 佳宏
23	WEO卒業生楽団	15	山崎 智樹
〈同期会・クラス会〉			
1	S40Sクラス会	33	羽生 利通
2	RB38年入学クラス会	37	津田 宏
3	六八会（1968年短大入学同期会）	60	勝本 研一
4	S50Dクラス会	31	今井 高介
5	S44 T入学クラス会	29	渡邊 隆一
6	UEC御宿友の会（S35卒同期会）	20	中村 善明
7	S1966会（S41年入学S科クラス会）	23	塩澤 和夫
8	S52卒仲間の同期会	13	小林 俊英
9	S38Eクラス会	26	木村 光照
10	電通大40Tクラス会	31	三木 哲也
11	60Tクラス会	39	原 裕樹
12	S2D同期会	13	渡辺 一夫
13	48R同窓会	40	菅野 政孝
14	P50卒クラス会	32	角田 吉規
15	電通大36Bクラス会	28	岡崎 宏
16	ハムの会（S37通信機械工学科入学生同期会）	29	久野 輝夫
17	短大70年代友人の会	40	山下 久雄
18	31B（通信経営科）クラス会	10	小林 範久
19	S31通別クラス会	15	佐藤 謙二
20	60N同窓会	25	中里 明子
21	通信工学科68年同期会	34	中村 達
22	S41入学/S45卒業Eクラス会	35	早川 和彦
23	53C同期会	61	関 和郎
24	64E入学同窓会（64年入学電子工学科の会）	23	小沼 博
25	UEC73R同窓会	33	大家 万明
26	73年卒業M科OB会	20	中山 良一
27	M1995&1996入学クラス会	7	中田祐美恵
〈地域・趣味・その他〉			
1	電気通信大学技術士会	49	遠峰 徹
2	UEC WOMAN 女子会	200	岩本 茂子
3	小田急沿線（OER）気楽な会	59	春日 正好
4	電通大無線の会	115	高橋 真之
5	おもちゃの病院	15	山森 信生
6	電気通信大学 沖縄県人会	21	島崎 俊介
7	子ども作文研究会 *2	12	石川 良教
8	ひよっこ技術者交流会	10	森 健太
9	Mexico-UEC	25	中野まり子
10	双乃会（そうだいかい）。特許・知的財産関連の従事者の集まり	398	志水 英貴

*1 平島正喜研究室、長谷川伸研究室、林泉研究室、御子柴茂生研究室、志賀智一研究室の教員及び卒業生

*2 キャリア教育の現・元特任講師による子ども国語教育研究会作文指導教室

角田・赤池研究室同窓会

角田博保研究室、赤池英夫研究室は、その後社長になった方など様々な経歴の方々を含め、学部生、院生、研究生を合わせて約250名が卒業・修了しています。沿革としては、1983年に角田研究室が開室、その後2013年に赤池研究室が開室し、角田研究室と共同研究を開始しました。現在は、2016年に角田先生がご退職された後に、研究室を引き継いだ赤池研究室が情報理工学域I類コンピュータサイエンスプログラムに所属しています。

研究分野はヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）と呼ばれ、簡単にいえばコンピュータの使いやすさを追求しています。例えば、より速く文字を入力する仕組みや、教育支援システム、安全を支援するシステム（歩きスマホ）の危険性の緩和など、また、VR（Virtual Reality）やAR（Augmented Reality）といった新しい形のコミュニケーションを用いたシステムの設計、実装、評価を行なっています。

研究室の現役生や同窓生の交流についてですが、いつから始まったのか、私の現役時代は誕生会を兼ねた飲み会を毎月（該当者不在の場合

も）開催していました。ケーキ込みで会費は千円という低予算の中でしたので、当時の現役生は卒業までに宴会料理を作るスキルが自然と身に付きました。豪華さはないのですが、ワイワイと調理する工程も含め、学生時代ならではの経験として非常に楽しかった記憶があります。当時は新人歓迎会、調布祭、追出しコンパなどの節目には、現役生から同窓生へも開催案内を送っており、現在の同窓会の元になっています。

今では幹事が同窓生に変わるなど、形態を変えています。様々な世代にご参加いただけているのは、現役時代の交流があったからだと思います。現在、同窓会は調布近辺で年数回開催しています。十数名が参加して近況や現役当時の思い出、現役生の研究など、様々な会話がなされています。最近では、下記の写真の通り2025年3月8日に追出しコンパを開催し、先生2名、現役生2名、同窓生7名が参加し、卒業生の門出を祝いました。

インフラとしては、開催報告にはFacebook、連絡にはGoogle Groupsを活用し、幹事へ直接または角田先生、赤池先生経由で更新の連絡をいただくことで常に整備しています。同窓会への参加は開催地等の理由からハードルを感じている方もいらっしゃると思います。ですが、定

期的に開催していますので、どこかのタイミングでの開催が、現役生と卒業生のつながりの醸成や、久しぶりに先生方や同窓生と顔を合わせることなどといったきっかけ作りに繋がれば嬉しく思います。

角田・赤池研究室同窓会代表

石原（中村） 佐和子
（2006年 情報工学科入学）



グループ会報告／サークル同窓会

グリーククラブOB会

電気通信大学グリーククラブOB会はグリーククラブの発展向上を支援することと会員間や会員と学生との間の親睦を深めることを目的として活動しています。昨年11月に現役学生と卒業生の交流会を開催しましたので、ここにご報告させていただきます。

電気通信大学グリーククラブは60年以上にわたって柳川直則先生に常任指揮者としてご指導頂き、男声合唱団として活動してきましたが、2019年の第62回定期演奏会を最後に柳川先生がご勇退されました。2020年からは浜田広志先生を常任指揮者としてお迎えし、混声合唱団として新たなスタートを切りました。

しかし残念なことに、浜田先生のご就任直後からコロナ禍に見舞われ、学生たちの活動もままならない状況となり、定期演奏会も開催できない年が続きました。それでも2023年1月にはほぼ3年ぶりに定期演奏会を復活させることができ、現在に至っていますが、演奏会の場所や時間帯の都合で、演奏会後のレセプションが開催できず、浜田先生や学生と卒業生との間の交流を深めることがかなわない状況が続いていました。

そのような状況の中、学生の方から交流会の提案があり、OB会も協力して、無事交流会を開催することができました。参加人数は浜田先生の他、学生が10名、卒業生が35名でした。交流会は2部構成とし、第1部は学生主催の合同練習会、第2部はOB会主催の懇親会としました。

第1部では、浜田先生の指揮およびご指導の下、多田武彦作曲の「柳河」と「雨」をいっしょに歌いました。現在学生は10名しかおらず、各パート1から3名の構成の混声合唱団として活動しています。一方卒業生は2000年以降、女性部員も一定数いますが、男声合唱団として活動してきました。今回は卒業生が35名も参加するので、学生には男声合唱曲に付き合ってもらいました。浜田先生からは男声と混声の違いはあるけれども、大人数の合唱の迫力や楽しさを学生たちも味わえたのではないかというコメントも頂きました。

第2部の懇親会については、学生の主力メンバーである1年生・2年生はまだ飲酒できない人が多いため、ノンアルコールの会としました。また、卒業生の中には卒業生どうしで結婚した人もいて、その子どもたちも参加しました。ノンアルコールの会ではありませんでしたが、最後には定番の愛唱歌である「遥かな友に」を全員で合

唱しておおいに盛り上がりました。

卒業生も参加する合同ステージが開催できれば理想的ですが、現在の学生の人数ではその準備の負担が大きすぎるので、せめて来年度もこのような交流会が開催できるよう、学生と協力していきたいと考えています。

グリーククラブOB会代表 宮本美則

(1980年 計算機科学科入学)



73年卒業機械工学科OB会

はじめに

1969年に機械工学科に入学した我々は、大学紛争のまっただ中で入試を迎えました。1月に東京大学が紛争で入試中止を発表。国立大学を志望していた受験生は、志望校変更で右往左往し、3月の一期校、二期校の入試を迎えました。電通大もご多分に漏れず学生寮問題で紛争中、入試は全学ロックアウト。機動隊員に囲まれて、正門で教員によるチェック、入試を受け4月初めに発表、入学式は当時新築のB棟で5月10日に行われました。その新入生が1973年に無事卒業して、社会へ飛び出してから50年以上経ちました。

OB会活動について

64年通機会（機械系OB会）を初めての卒業生たちが発足。2015年6月にその50周年行事に合わせて、我々73年卒業生OB会を発足しました。通機会総会後に調布駅近くの居酒屋で22名の（卒業時は確か49名）参加で開催。続いて2015年27名、2018年20名、そして昨年2024年に卒業後51年を迎えて、15名が元気に東京駅内のビアホールに集まりました（写真参照）。

真参照）。

参加者全員と欠席された方の近況報告を行いました。70歳を超えると仕事の話は少なく、病気の話が多いながら、元気に再会できたことの喜びと苦労話などに花を咲かせました。因みに卒業50周年は2023年でしたが、コロナ禍の影響でOB会準備ができず、1年延期しての開催となりました。残念なことに物故者総数が8名と前回での4名から倍増、消息不明者も3名と増加するなど、6年間のコロナ空白は大きいと感じた次第です。

兵庫や大阪から駆けつけた参加者もあり、約50年前に戻って研究室の話題など記憶を辿りながら当時を思い出しました。昔の調布駅付近のお店が残っているか、生協はどうなっているかなどの話題で、2時間余り楽しく盛り上がりました。

おわりに

今回のOB会は2年後に行うこと、今回残念ながら参加できなかった方も含め、元気で再会することを約して、閉会としました。引き続き集合写真を撮影、但し既に帰宅した2名は写真で合成了しました。

今回初めて、目黒会の同窓会サービスを利用、ホームページへの掲載など頂き、ありがとうございます。

ございました。参加者へ目黒会の活動をPRしました。

73年卒業機械工学科OB会

代表幹事 中山良一

（1969年機械工学科入学）





☆～沖縄の星空を楽しむガイドブックの紹介～☆

宮地 竹史

1968年 短期大学部通信工学科入学

1968年に入学して、下宿に近い三鷹の東京天文台（現、国立天文台）で、太陽電波の観測をするアルバイトを始めました。

その後、職員として採用され長野県に野辺山宇宙電波観測所を建設し、電波天文衛星「はるか」なども手掛けました。2000年からは、国内4か所（奥州市、小笠原諸島父島、薩摩川内市、石垣島）に電波望遠鏡（口径20mのパラボラアンテナ）を建設することになりました。この4か所では、地元への貢献と、天文学の広報普及のために、星空イベントなども企画しました。これが成功して、沖縄では、「南の島の星まつり」が、大イベントに発展し、石垣島天文台を作るまでにしました。

仕事の傍ら、「沖縄の美しい星空を観光資源に！」と、星空ガイドやガイドの育成などをし、石垣島天文台が完成してからは、沖縄ならではの星の名前や物語を紹介してきました。

2016年末で、国立天文台を退職し、その後も石垣島に住み、星空ガイドやそのアドバイスなどをしていましたが、2018年には、当時の翁長県知事から「沖縄県観光功労者」の表彰を受けてビックリ！でした。

コロナ禍の中で、「閉じこもっていないで、天文台での星空解説や、ガイド育成講座での話を本にしましょう」というお話を頂き、沖縄の四季の星空ガイドブック「沖縄の美ら星」（琉球プロジェクト）と、この

間に地元の新聞などに載ったエッセイをまとめた「星の旅人」（沖縄タイムス）の2冊を出版することができました。

特に「沖縄の美ら星」は、「こんな本が欲しかった」「子供や孫に読ませたい」と、とても好評で再版もされました。さらに昨年8月には、なんと沖縄の書店44社が選ぶ2024年「この沖縄本がスゴい！」賞を受賞しました。ある書店の方からは、「読んだ途端、これは売りたい本だと思った」と、記者発表の席で褒められました。

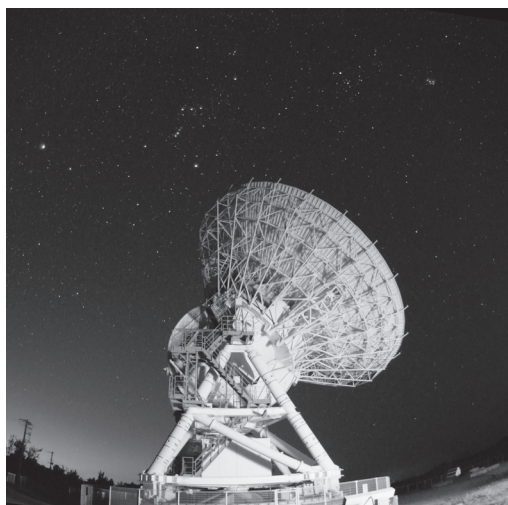
賞を頂いたこともあり、星空案内をする機会も増えました。参加者から「沖縄の星の名前や物語を聞いて、沖縄の暮らしや歴史、文化を感じました」「星空を眺めることで癒されます」「平和の大切さを感じます」などの声が寄せられています。

私自身も、国立天文台で最先端技術を駆使して、高性能の電波望遠鏡などの観測機器を開発、製作し、観測もしてきましたが、仕事が深夜まで及んだ時などは、夜空に広がる天の川や星空の美しさに疲れや苦勞を忘れた事がたくさんありました。

今回、沖縄で賞を頂くと、さっそく同窓生や同期会のメンバーからお祝いの電話やメールがありました。同じ星空の下で、まだまだ元気に活躍している仲間たちがいることを知りました。今回の投稿も、仲間たちに勧められてのことです。



沖縄の書店から推奨された拙著「沖縄の美ら星」



石垣島の口径20mの電波望遠鏡と冬の星座



お役立ち情報

会員活動紹介

暮らしやビジネスの相談ごとに関立つ同窓生をご紹介します

レンタルピアノスタジオの紹介

美濃越 亮太

1989年 電子工学科入学

■副業でレンタルピアノスタジオを開業

会社員として働く傍ら、副業で無人運営のレンタルピアノスタジオを2023年に開業しました。グランドピアノを設置し、頻繁にオーナーの私が調律しているため、ピアノの状態が常に良好なことで、演奏に集中できる室内環境が好評です。グランドピアノの個人練習、発表会やコンクールの直前練習、ピアノレッスンなど、様々な目的でご利用いただいています。現在の船橋店に加え、千葉駅近くにも出店準備中です。

■経緯

好きな音楽での起業を夢見て数年、ようやく実現しました。開業に先立ち、夜間や休日にスクールに通い、ピアノ調律の技術を身につけました。オーナー自身がピアノ調律技術を持つことが、本事業の強みの一つです。市場調査の結果、近隣に競合がいなかったため開業に踏み切りましたが、裏を返せば需要がない可能性もあり、それが最大の懸念でした。開業して1年半が経ち、予想以上に需要があることがわかり、千葉駅近くに2店舗目を出店準備中です。当初の事業計画が前倒しとなり、嬉しい誤算です。

■成功要因の分析

ここまでの成功要因を分析すると、①好きなことを事業にしているため、アンテナも意欲も高い ②会社員としてのビジネス経験が、一般的なリスク回避に役立った ③電通大で培ったこだわり力とアナログ力、の3点が挙げられます。③については、研究室では半導体の原子レベルでの観察や測定を繰り返し、細心の注意と高い精度のアナログな作業が求められました。こ

の経験が日々の事業運営に関立っています。半導体研究とレンタルピアノスタジオ事業という一見かけ離れた活動に共通点があるのも興味深いものです。

■副業の良いところ

本業は、数千人規模のIT企業に勤めて30年になります。働き方は個人事業主のそれとは全く異なります。両方体験してみると、大企業と個人事業主、それぞれの長所と短所がよく分かり、働くことに対して俯瞰的な視点を持てるようになりました。また、会社員に定年はありますが個人事業主にはありません。退職後に年金を補うとともに、やりがいのある事業ができるとしたら、幸せなことだと思います。

■今後の抱負

手探り・手作りで始めた事業ですが、予想以上に需要があり、順調な滑り出しとなりました。とはいえ吹けば飛ばような個人事業で、緊張感は常にあります。今後の最大のリスク要因は、加齢による体力と気力の衰えだと見ています。節制を心がけ、身体と心という文字通りの資本・経営資源を大切に、これからもこだわり力を発揮しながら事業を拡大し、より多くの音楽愛好家のお役に立ちたいと考えています。

レンタルピアノスタジオ GranPiano

<https://granpiano.jp>

船橋店 船橋駅から徒歩13分

(準備中) 千葉店 千葉駅から徒歩5分(2025年6月頃)に開店予定)



GranPiano

グランドピアノはオーナー自身が頻繁に調律



GranPiano

バロック時代の鍵盤楽器を休憩スペースに設置

メッセージ

(旧おたより掲示板)

もっと多くの同窓生の「今」を知りたい。
そんな思いから設けたコーナーです。

* 学科の年表記は入学年です。



【近況】山神義昭 1979 電子工学科

京都市伏見区に住んでいます。伏見は酒どころ。黄桜や月桂冠といった大手以外にもたくさんの酒造会社があります。それぞれのお酒を飲み比べ、特長を味わい、楽しんでいます。電通大にいた頃、当時の研究室のメンバーは指導教官も含めて酒好きが多く、一升瓶を空にしてはラベルを剥がして研究室の窓に貼って喜んでいました。その頃の酒好きが今につながっているような気がします。

【仕事】神谷 茂 1971 通信工学科

5年前にIT関連の仕事を引退してから、愛知県春日井市のシニア向けのパソコン教室・スマホ教室の講師・サポートをしています。最近は愛知県の「高齢者デジタルサポーター」にも登録して自治会活動等のデジタル活用のサポートもしています。AIの入門活用等の話もあって結構最新技術の勉強にもなっております。

【仕事】青井育夫 1996 電子物性工学科

様々な関門を経て転職をしました。約束事・ルールが様々ありますが、外国人が半数もいる設備メーカーで働いており、生き生きとした出社を維持できています。今年の調布祭の頃には東京に行って雰囲気報告したいです。

【近況】石崎裕行 1975 材料科学学科

今年で古希を迎えます。まだ仕事はバリバリ現役で、全国いたるところに行き、我が国の理科教育と科学教育の普及活動をしています。理科好きな児童生徒をたくさん増やして、将来、世界を牽引する科学者育成を目指しています。なかなか引き継げる人が出てこないのですが、まだ体が動いているので業務を続けています。そろそろ次代につなぐことを考えなくてはいけない状況に来ています。

※以下のような「お便り」は掲載できませんので、あらかじめご了承ください。

●会員個人の近況報告に関する文章表現になっていないもの ●社会規範、公序良俗に反するもの ●他人の権利を侵害し、または他人の迷惑となるもの ●広告にあたるもの ●その他、目黒会広報委員会が不適切と判断したもの

通機会からメールアドレス再登録のご案内

通機会（機械系学科同窓会）がリニューアルします！

第12期（2026年7月）より変更いたします。（新通機会発足趣旨をご覧ください）

今後はメールを主な連絡方法といたしますので、メールアドレスの登録を改めてお願いいたします。

第11期通機会会長 小柳 洋、準備委員会一同



通機会

登録フォーム



※新通機会発足趣旨は
以下 QR よりご覧ください



問合せメールアドレス：staff.tsukikai@gmail.com

飯島澄男氏（1963年電波通信学科卒業）が 2025年King Faisal Prizeを受賞



授賞式の写真（前列中央：飯島氏、右隣：サウジアラビア国王）

1963年に電波通信学科を卒業された飯島澄男氏が2025年 King Faisal Prize（科学部門（物理学分野））を受賞されました。

King Faisal Prizeは、サウジアラビアのキング・ファイサル財団が授与する賞で1979年に創設され、「アラブのノーベル賞」とも呼ばれています。イスラム研究・医学・科学・アラビア文学などの分野において顕著な功績のあった人物に授与されるものです。

過去に1999年に科学部門で野依良治氏、2011年に医学部門で山中伸弥氏などが受賞しています。

授賞式は2025年4月14日にサウジアラビアの首都リアドで開催されました。

.....
飯島澄男氏は、カーボンナノチューブの発見と電子顕微鏡による極微構造の研究により、カーボンナノチューブの分野を確立し、基礎的な固体物理学と材料科学に大きな影響を与えました。1995年には第1回の「同窓会賞」を受賞されています。

トピックス

『紅葉・イルミネーション大賞』報告

同窓生の皆様の交流を図るため、同窓生交流サイト『同窓会ラウンジ』のギャラリー欄を活用して、一年間を通してシーズン毎の地元の行事等を写真でご投稿いただく企画を実施しています。2024年度下期に実施したシーズン毎の大賞をご報告いたします。



紅葉大賞カラー表示



(1) 紅葉大賞2024

「紅葉」の写真を2024年10月21日～12月20日の期間内に募集したところ、同窓生の皆様から36作品のご投稿をいただき、7作品が紅葉大賞に選出されました。



作品名 : 秋彩の小径

作者 : 久米 正太 (2015 情報理工学部先進理工学科入学)

作品紹介 : 本作品は、東京都御岳山付近で撮影した紅葉の風景です。山道に広がる秋の彩りと、木々の間を流れる小川が織りなす静寂なひとときを切り取りました。

苔むした岩や落ち葉が敷き詰められた道には、時間が止まったかのような穏やかな空気が流れています。

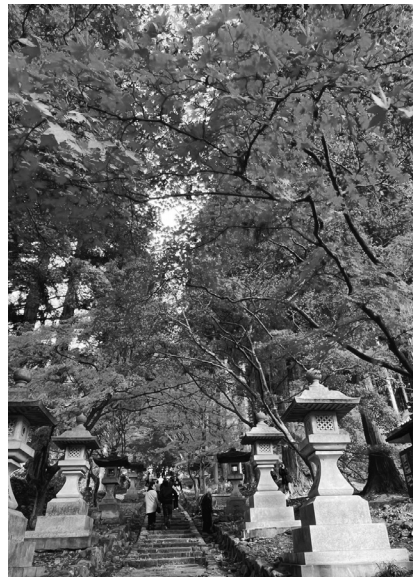


作品名 : 溪流と反橋

作者 : 佐々木 一夢 (2015 情報理工学部先進理工学科入学)

作品紹介 : 東海地方の奥地にある神社の反橋です。

下に流れる穏やかな水の流れを玉ボケで写しつつ、紅葉の色付きが水面に反射して幻想的な景色を撮ることができました。



作品名 : 長野県清水寺

作者 : 新井 茂 (1977 情報数理工学科入学)

作品紹介 : 2024年11月23日撮影。参道が紅葉のトンネルになります。



作品名 : 月の石もみじ公園の紅葉

作者 : 篠田 東洋児 (1963 電波工学科入学)

作品紹介 : 埼玉県秩父郡長瀬町上長瀬にある公園で、荒川渓流に面し、向かいには「日本地質学発祥の地」の石碑のある「埼玉県立自然の博物館」があります。この時期は夜間ライトアップされます。



作品名 : 都立長沼公園の紅葉

作者 : 馬場 裕 (1966 通信材料工学科入学)

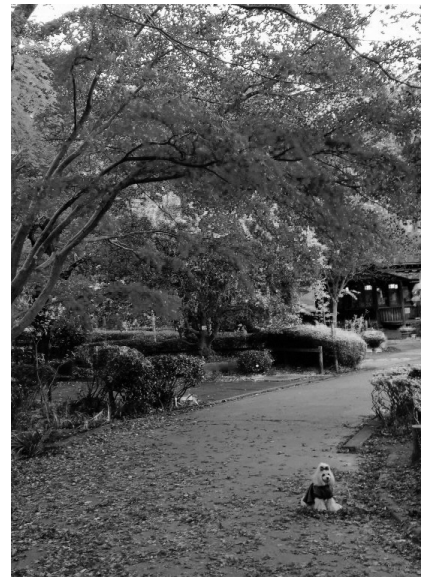
作品紹介 : よく散歩に行く、八王子市都立長沼公園の紅葉です。天候不順が長引いて心配でしたが、晴天に恵まれ、紅葉のグラデーションが綺麗でした。



作品名 : 黄金色の絨毯

作者 : 原 裕樹 (1985 応用電子工学科入学)

作品紹介 : 場所は東京都立中川公園です。散歩中に撮りました。



作品名 : 町田薬師池公園の紅葉

作者 : 安藤 裕武 (1959 電波通信学科海上通信専攻入学)

作品紹介 : お姉さんが可愛いワンちゃんを撮影中だったので借景させていただきました。

(2) イルミネーション大賞2024

「イルミネーション」の写真を2024年12月13日～2025年1月31日の期間内に募集したところ、同窓生の皆様から16作品のご投稿をいただき、3作品がイルミネーション大賞に選出されました。

イルミ大賞カラー表示



作品名 : ミッドタウンのツリー
作者 : 渡辺 和典 (2003 システム工学科入学)
作品紹介 : 仕事の合間にもかかわらず惹きつけられる素晴らしいツリーでした。



作品名 : Forrest Place
作者 : レズリー菜緒 (2000 人間コミュニケーション学科入学)
作品紹介 : 西豪州 パース市 駅前広場、Forrest Placeのイルミネーションです。
こちらに来て18年になりますが、寒いクリスマスが恋しいです。



作品名 : 我が家のクリスマスイルミネーション
作者 : 船蔵 修一 (1969 機械工学科入学)
作品紹介 : クリスマスの季節感を高めるため我家をイルミネーションで飾りました。

会員サービスのご案内

図書館利用証発行サービス

電気通信大学附属図書館への入退館ができる利用証発行サービスです。(利用証を使用することで入退館の際に手続不要で利用できます。)なお、図書の貸し出しは出来ません。(https://megurokai.jp/home2/ 図書館利用証発行 /)



クラス会開催連絡サービス

懐かしい仲間と集いたい同窓生向けのサービスです。同窓会ラウンジの「楽しむ/予定」に投稿し、このサービスを希望すると目黒会から対象同窓生に開催をお知らせします。クラス会開催日及び場所が決まっていなくても利用できます。連絡サービスを希望される場合は、クラス会開催日の一か月前までに投稿をお願いします。(https://megurokai.jp/home2/ クラス会開催連絡サービス /)



結婚式お祝いメッセージサービス

ご本人の依頼によって目黒会から結婚お祝いメッセージをお届けするサービスです。挙式(お届け希望日)の2週間前までに申し込みください。(https://megurokai.jp/home2/ 結婚式お祝いメッセージサービス /)



長寿お祝いメッセージサービス

古希(70歳)、喜寿(77歳)、米寿(88歳)を迎えられる同窓生に長寿お祝いメッセージを敬老の日にお届けするサービスです。(https://megurokai.jp/home2/ 長寿お祝いメッセージサービス /)



ご利用を心よりお待ちしております。

お問い合わせ窓口

目黒会事務局

E-mail : service@megurokai.jp https://megurokai.jp/home2/

メールアドレス登録のご案内

目黒会では更なる同窓生サービスの向上を目指し、下記の情報を電子メールでお届けしています。

- ・大学の最新イベント情報（ホームカミングデー、STF、調布祭など）
- ・お住いの地域の目黒会支部活動情報（総会、交流会のご案内など）
- ・グループ会、サークル・研究室同窓会情報
- ・大学・目黒会の最新トピックス など

皆様のお役に立つ最新情報をタイムリーにお届けします。

この機会に目黒会ホームページから登録をお願いいたします。

https://megurokai.jp/home2/change/e-mail_reg_form/



電気通信大学 鳥人間サークル
U.E.C.wings

**鳥人間コンテスト2026
出場権獲得を目指して！**
～目黒会も全面的に応援～



昨年はパイロットの負傷により2024年大会への出場を見送りましたが、今年はチーム記録の更新に向けて、機体構造の研究開発および試験機体の製作を行ってきました。2025年大会は残念ながらコンテスト出場権を獲得することができませんでしたが、2026年大会への出場に向けて機体製作や試験飛行など、多額の費用が必要となるため、引き続き同窓生の皆様にご支援をお願い申し上げます。

寄付金 1口 1,000円

(何口でも可。できましたら3口以上よりお願いいたします。)

*詳細は同封のチラシをご覧ください。

寄付金募集

※詳細はこちらをご覧ください。



スマートテクノロジーフォーラム (STF) 2025

講演会開催のお知らせ

目黒会では、最先端技術に係る講演会「スマートテクノロジーフォーラム」を毎年開催しておりますが、今年は「AIが変える社会～挑むべき課題と描く未来～」というテーマで開催します。

主催：一般社団法人目黒会 共催：国立大学法人電気通信大学

後援：国立大学法人電気通信大学産学官連携センター



講演会

テーマ：AIが変える社会～挑むべき課題と描く未来～

日時：2025年9月26日（金）14:00～17:40 場所：創立80周年記念会館3階+ Zoom オンライン 参加費：無料

講演内容（予定）：

講演1：世界と日本のAI規制・ガバナンス政策を巡る最近の動向

東京科学大学 データサイエンス・AI全学教育機構 特任教授 市川 類氏

講演2：AnimateとGenerate —著作権の現在地—

日本アニメフィルム文化連盟 事務局長 福宮あやの氏

講演3：初等中等教育における生成AIの活用

東京学芸大学 ICT/情報基盤センター 教授 森本康彦氏

講演4：ゲームAI研究の進化と展望

電気通信大学 情報・ネットワーク工学専攻 教授 伊藤毅志氏

* 講演会の詳細や参加申し込みについては、目黒会ホームページにて公開しておりますので、詳細を確認していただき、参加登録をお願いします。

第75回調布祭開催のお知らせ

電気通信大学学友会調布祭実行委員会

皆さん、こんにちは。私たち調布祭実行委員会は、今年も11月21日（金）から11月23日（日）に開催される「調布祭」の準備及び運営を行っています。第75回調布祭は、昨年に引き続き実地での開催を予定しており、例年通り多くの皆さんに楽しんでいただけるように、準備を進めています。調布祭実行委員会は、今年も2年生を中心に約60名が集まり、昨年よりも規模が大きくなっています。委員会一同、皆さんにとってより楽しく、盛り上がるイベントになるよう全力で取り組んでいます。これまで以上に賑やかで活気あふれる調布祭を目指して、一人ひとりが新しい挑戦を重ねていますので、ぜひ皆さんも一緒に楽しんでいただければと思います。

また、調布祭の開催には多くの皆様のご協力が必要です。調布祭実行委員会では、活動の趣旨に賛同し、協力してくださる企業や個人の皆様からのご支援を募集しています。詳細は調布祭実行委員会のホームページ（<https://www.chofusai.jp/>）をご覧ください、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご来場を委員会一同、心よりお待ちしております！



寄 付

2025年4月22日現在

■一般寄付

氏名	卒業年次	学科・専攻	金額				
				伊藤 啓一	昭和49	C	¥2,000
清水 宏晃(ご遺族)	昭和34	B	¥13,000	三好 敏夫	昭和53	JS	¥2,000
渡辺 剛	平成5	J	¥10,000	中里 友美	昭和60	N	¥2,000
田島 繁生	昭和49	T	¥6,000	甘利 裕二	平成2	S	¥2,000
太田 和子		賛助会員	¥5,000	匿名希望			¥2,000
杉山 茂樹(ご遺族)	昭和55	R	¥3,000	山下 武	昭和43	B	¥1,000
関根 康平	平成10	J	¥3,000				

第12回 電気通信大学ホームカミングデー開催のご案内

ホームカミングデーは卒業生に大学の今を見ていただくとともに、卒業生と大学のつながりを深めることを目的としています。今年の電通大ホームカミングデーは7月20日（日）に電通大調布キャンパスで開催されます。この日はオープンキャンパスと同時開催ですので、研究室公開などにも参加できます。



卒業生の皆様におかれましては、同窓生・恩師・在学生等との交流や親睦を深めていただきたく、お問い合わせのうえ、是非ご参加ください。

●日時：2025年7月20日（日） ●場所：電気通信大学調布キャンパス

プログラム（予定）

●歓迎講演会

- ・学長挨拶・講演
- ・目黒会 会長挨拶
- ・学術講演会（同窓会賞受賞者他）

●ウエルカムパーティー（卒業周年記念品贈呈、目黒会支部自慢地酒コンテスト）

●グループ会交流の広場（各グループ・プレゼン、ポスターコンテスト）

●目黒会カフェ（鳥人間サークル機体展示）

●同時開催オープンキャンパス

- ・研究室公開
- ・附属図書館公開
- ・UEC コミュニケーションミュージアム公開

* 大学、目黒会ホームページにホームカミングデーの最新情報を随時掲載していきますので、ご注目ください。

目黒会グループ会のご案内

P32～P35の
グループ会情報も
ご覧ください！

電気通信大学卒業生の多くの皆様がグループの活動を通じて同窓生同士の交流を深める活動をされています。そこで、目黒会では「目黒会グループ会」という連携組織を設けることで、グループとの情報交流を深めて参ります。活動されている皆様は、是非ともグループ会への登録をお願い申し上げます。



1. 目黒会グループ会への参加要領

（参加条件）①グループ会の代表者は目黒会正会員であること。

その他の条件は目黒会ウェブサイトをご参照ください。

グループ会登録は随時受け付けています。

2. 目黒会グループ会のグループ参加メリット

①正会員7名以上のグループ会へ活動補助金（年1回上限2万円）を交付します。

活動補助金の交付にあたっては2月末までに活動報告書（登録後の活動が対象）と領収書（原本）の提出が必要です。事務局では報告書の内容を確認し、審査した上、活動補助金を交付します。

②目黒会同窓会誌にグループ活動紹介を載せてグループの広報宣伝に協力いたします。

〈お問い合わせ窓口〉

目黒会グループ会窓口：目黒会事務局

E-mail：info@megurokai.jp <https://megurokai.jp/home2/>

編集後記

今号の特集は電通大が長年取り組んでいるダイバーシティ推進をテーマとしました。大学の取り組みは特に女性の活躍に焦点を当てながら、他大学や高校とも連携した多様な活動が展開されていることが分かりました。U E C W O M A N 女子会の活動には、電通大卒業の女性という共通の属性を持つだけで仲間になれるという、まさに同窓会の本質があると感じました。

ユニーク&エキサイティング・キャリア編では今回もユニークなキャリアを積み活躍中の卒業生を紹介しています。河端保志さんは在中にエンジニアが働く環境に疑問を持ったことからIT人材支援の会社を起業し、上場まで実現されています。本下昌彦さんは放送局で日本初のAMステレオ放送を成功させた後、米国の大学で学び、メディア関連技術をベースに米国で起業されました。お二人とも米国に渡って得た刺激がきっかけでその後のキャリアの方向付けがされた共通点があります。

ところで、先日大学院の学位授与式に参加し、総代の学生の答辞の素晴らしさに感動しました。電通大の入学式や卒業式の模様は電通大のYouTubeチャンネルで公開されています。自分の時を思い出して懐かしい気持ちになると同時に今の学生の様子を感ずることができそうです。

広報委員会 委員長 高橋真之

会費納入のご案内



目黒会の諸活動は皆様の会費によって運営しております。

皆様から納入いただいた会費をもとに①社会貢献、②大学支援、③親交・親睦に関する諸活動を展開しています。

同窓会誌2023-2号より赤色の払込取扱票は、会費納入時期となりました同窓生の方の宛名台紙にお付けしております。会費納入にご協力をお願い申し上げます。

会費納入時期に関するお問い合わせはinfo@megurokai.jpまでお願いいたします。

会費は、年額3,000円、お得な5年分一括払い13,000円、10年分一括払い24,000円があります。PayPalからも送金可能です。(詳細は<https://megurokai.jp/home2/member/>) 銀行振込の場合は、次の銀行口座で可能ですが、振込手数料は送金者負担になります。

三菱UFJ銀行 調布支店 普通1535011 シャ)メグロカイ

銀行振込後、目黒会公式サイトの会費納入方法内の「お振込み情報フォーム」から振込情報をお知らせください。

電気通信大学同窓会

一般社団法人 目黒会

〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学内

TEL:042-482-3812 FAX:042-482-3845

E-mail: info@megurokai.jp

発行日 2025年6月16日

発行人 目黒会

編集人 高橋真之

※本誌の記事を無断で転載することを禁じます。

広報委員会委員名

委員長 高橋 真之

副委員長 中里 明子

委員

横川 慎二

島崎 俊介

宮本久仁男 (アドバイザー)

宮坂 純 (事務局)

篠崎 祐司 (事務局)

(2025年5月現在)

目黒会・広報委員会、本誌へのご意見・ご要望をお寄せください。